

佐渡志  
下

291.41  
1a838  
100

田中從太郎著  
田中美暢編輯

全二册

# 佐渡志

齋藤長三藏版



261515

## 佐渡志卷之十

### 神祠

皇朝之風儀專ラ祭祀ヲ重ムセラレテ古ハ天神地祇三千餘坐國々ニ  
分チ祭ラシメラレシ時此ノ國ニモ九坐ノ神ヲゾ定メラレタリケル  
延喜式 是ヨリ前



欽明天皇ノ御宇ニアタリテ肅慎ノ夷來ルコトノアリシニ瀬河浦ト  
此浦ノ名 云フ處ニ在セシ神嚴ニ人ヲ忌タマヒテ夷ヲ敢テ近ヅケザ  
今ハナシ名 云フ處ニ在セシ神嚴ニ人ヲ忌タマヒテ夷ヲ敢テ近ヅケザ  
リシ由國史ニ書記載ラレタルゾ此國ノ神ノコト見エシ始ナルベキ  
齊事紀ニ佐渡國建日別トアリ建日別ハ此國ノ神ノ名トイフ説モア  
去レト其神  
跡ハ如何ニヤナリケム知ルベカラズ貞觀十六年甲午十二月正六位  
上花村ノ神ニ從五位下ヲ授ケラレ元慶二年戊戌十一月正六位上佐  
志羽神ニ從五位上ヲ授ケラレ同七年癸卯三月大庭神ヲ從五位下ニ

● 佐渡志卷之十

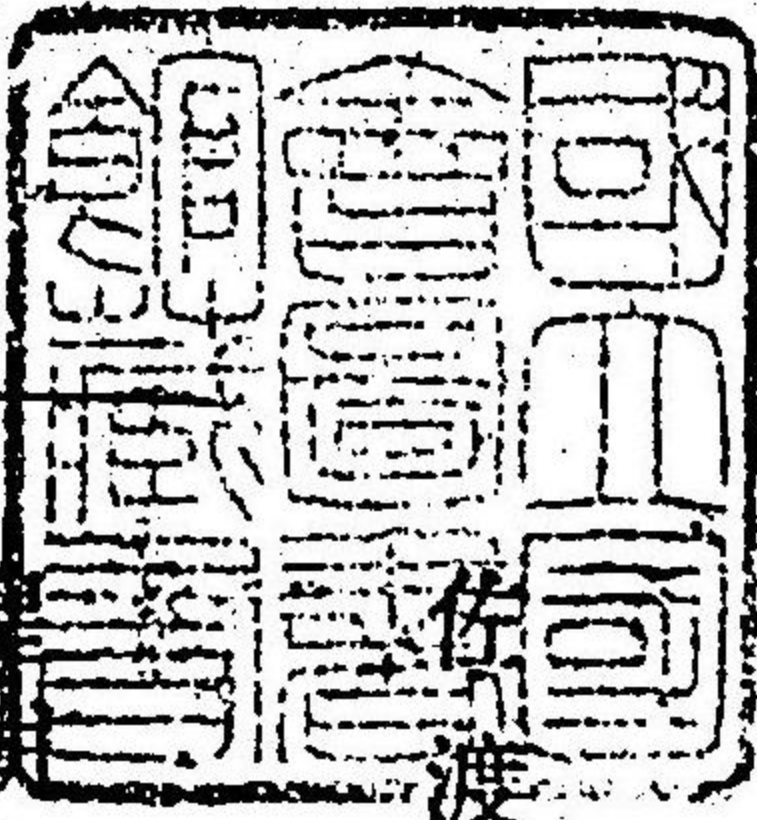
田中從太郎著  
田中美暢編輯

全三册

# 佐渡志

齋藤長三藏版

261515



佐渡志卷之十

神祠



皇朝之風儀專ヲ祭祀ヲ重ムセラレテ古ハ天神地祇三千餘坐國々ニ  
分チ祭ラシメラレシ時此ノ國ニモ九坐ノ神ヲゾ定メラレタリケル  
延喜式 是ヨリ前  
欽明天皇ノ御宇ニアタリテ肅慎ノ夷來ルコトノアリシニ瀬河浦ト  
此浦ノ名云フ處ニ在セシ神嚴ニ人ヲ忌タマヒテ夷ヲ敢テ近ゾケザ  
今ハナシ云フ處ニ在セシ神嚴ニ人ヲ忌タマヒテ夷ヲ敢テ近ゾケザ  
リシ由國史ニ書記載ラレタルゾ此國ノ神ノコト見エシ始ナルベキ  
事紀ニ佐渡國建日別トアリ建日別ハ此國ノ神ノ名トイフ説モア  
レ下建日別ノ條下ニ記セル如ク疑ハシキアレハ本文ニハ載セズ去レト其神  
跡ハ如何ニヤナリケム知ルベカラズ貞觀十六年甲午十二月正六位  
上花村ノ神ニ從五位下ヲ授ケラレ元慶二年戊戌十一月正六位上佐  
志羽神ニ從五位上ヲ授ケラレ同七年癸卯三月大庭神ヲ從五位下ニ

● 佐渡志卷之十

叙セヲレシナド見エタレド三代今ニ至リテ是等ノ神モ聞エザレバ皆其傳ヲ失ヒタルニヤイブカシキコトナリ元享ノ頃ニ及ンデ本間兵衛太郎同九郎入道佐渡國十社神事ヲ沙汰スベキ由ノ下シ文アリ本問家古文書是モ何レヲサシテ十社トハ言ケム明カナラズ代下リテ後ハ國郡ニ謂レナキ神ヲモ民ノ心ニ任セテ濫リニ崇メ祭ルコト習ハシトナリケルニゾ祠ノ數年々ニ増テ十二權現白山權現ナド里毎ニ無キ處モアアズステ慶長六年辛巳ヨリ關東ノ政トナリシカド萬ゾ舊ギニ仍テ治メラレシカバ社地神田ノ租稅永ク免サレテ小祠ト雖ドモ春秋ノ祭怠ルコトナシ今爰ニ連子記ス

度津神社

地壹町六段五畝

羽茂郡飯岡村ニアリ延喜式ニ載スル所ノ九社ノ第一ニシテ五十

猛命ヲ祭リ大屋津姫孤津姫ノ二神ヲ以テヨレニ配ス一宮記又海童神ヲ祭ルトモイヘリ古ヘノ祠ハ正和中ニ改タメ修セラレテ後文祿三年癸丑六月ノ水ノ災ニ社壇流レケレバ同シ村ノ八幡ノ祠ニ合セ祭レリ其後舊ノ地ニ祠ヲ造リタレド猶八幡ヲ相殿ニオクトイヘリ古ヨリ祠ヲ修シ鳥居ヲ造ル毎ニ河茂村官林ノ杉木ヲ賜ル例ナリ

大目神社

地壹畝六步

雜太郡吉岡村小河内トイフ處ニアリ九社ノ第二ニシテ大宮賣神一云祭大已貴神ヲ祭ルトイヘリ按ズルニ大目ハモト郷名ナリ倭名類古ヘ郡郷ノ名ヲ以テ社名ニツケシ類ヒ多シ延喜式越後國蒲原神社奴奈川神社ナド見ツベシ此地昔ハ羽茂郡ニ屬シテ大目郷小河内

村トイヘル一村ナリシガ明曆中雜太郡ニ入。後又吉岡村ニ併セ  
シナリ德治二年丁未七月本間遠江守トイヘル地頭此社ヲ修理セ  
シ時ノ棟札ハ今モ殘レリ其頃ノ社ハ小河内川ノ際ニアリテ地殊  
ニ廣カリシヲ上杉ノ時ニ故アリテ沒收シ今ハ田圃ニヒラキタル  
ハ尙其地ノ名ヲ昔ノ儘ニ大目林ト檢地帳ニモシルセリ

(今案ニ是社ハ物部氏ノ神社ニシテ大寶布速ヲ祀レリシヨリ郷名モ起リシナラン)

引田部神社

地貳拾四步

雜太郡金丸本郷ニアリ九社ノ第三ニシテ大已貴神田一云祭族ヲ祭  
ルトイヘリ別當修驗觀性院ニ景勝ノ制札ヲ傳ヘタリ

制札

金丸

右於當地諸軍勢濫妨狼籍並竹木剪採事堅令停止畢若違犯  
之輩有之者於立所可加成敗之由被成御朱印者也仍如件

天正十七年六月日

奉行中

(今案ニ是社ハ賀茂氏ノ社ニシテ大已貴神ヲ祭レルヲ決ナシ然ルニ當今社説ニ接田彦トセルハア  
ヤマヲナリ)

物部神社

地壹畝五步

雜太郡小倉村ニアリ九社ノ第四ニシテ物部氏ノ始祖宇麻志麻治  
命ヲ祭ルト云ヘリ國史ニ延曆十年辛未九月佐渡國物部天神從五  
位下ニ叙セラルト續日本紀見エタレバ其起レルコトハ尙ホ久シカ  
ルベシ

(今案ニ是社モ物部氏ノ社ニシテ穗積老杯ノ祀レリシ遺跡ナラン)

御食神社

九社ノ第五ナリト雖臣神跡令詳ナラズ雜太郡後山村ノウチニ此  
 神ヲ崇ル由ニテ形バカリノ小祠アリ修驗觀行院戴祭ルトイヘリ  
 去レド元祿檢地ノ帳ニ見エザレバ如何ニヤアルベキ又同シ郡ノ  
 内竹田村大膳ノ社乃チ御食神社ナリト古キ物ニ記シタリ按ズル  
 ニ御食神ハ御食津神トモイヒテ元大内ノ大膳ノ司サ所ニ祭ラレ  
 タル神ナレバ延喜式古ヘ通ハシ呼ンデ大膳ノ神トモ言タルヲ後  
 ニハ御食ノ名ヲ失ヒテ大膳明神トノミ稱シケルニヤ大膳明神ノコ  
 アレド彼祠ニ傳ヘタルニニアラズ總テ古モ事トモノ詳ナラヌヲ今ハタ強  
 デ民間ノ物語ナレバ今取ラズテ唯聞トコロヲ誌シテ後ノ考ニ備ヘツ  
 テ説ヲナサンモ穩ホラズ

(今案ニ是社ハ高橋氏ノ同族竹田臣孫ノ社ニシテ膳臣ニ深キ縁アル大膳職ノ御食津神ヲヤ記レリ  
 ナン然ラハ祭神ヲハ天太玉命トスベシ)

飯持神社

地六畝拾五步

雜太郡河内村ニアリ九社ノ第六ニシテ若宇加能賣神ヲ祭ルトイ  
 ヘリ

(今案ニ是ハ「ミケモチ」ト訓ムベキカ「イヒチ」ト訓ムベキカ將「イヒモチ」カ審ナラズ「ミケ  
 モチ」ナラバ本音ノ如クナルベク「イヒチ」ナラバ熊野御食主神ニシテ物部氏ノ社ナルベシ)

越敷神社

地四畝

雜太郡猿八村ニアリ九社ノ第七ニシテ埴安神ヲ祭り中古ヨリハ  
 八幡ヲモ合セ祭レリ或人ノ云フ越敷ノ社ハ猿八村ニアラズ河茂  
 村猿橋トイヘル處口眞ノ神跡ナリトゾ然レドモ古書ニヨリテ考

ル井ハ河茂村ハ昔ヨリ羽茂郡ノ地ニシテ雑太ノ郡ニ入シコトナ  
シ越敷ハ雑太郡鎮坐ノ神ナレバ延喜式猿八村ノ方ニ從ガフベキニ  
ヤ

(今案ニ是社モ「チニブ」ト訓ムベキカ「チシキ」カ審ナラズ「チニブ」ナラバ越太郷ノ社ニシ  
テ道公氏杯ノ祀レリシナラン然ラバ祭神ハ若狹彦命ナルベシ越太ナ「コシダ」ト訓ムハアヤマリ  
ナメリ)

大幡神社

地八畝

加茂郡大倉村ニアリテ九社ノ第八ナリ按ズルニ天御中主尊ノ末  
彦久良爲命ノ子大若子命ト聞エシ人

垂仁天皇ノ御時北狄ヲ平ラゲタル功ニ因テ大幡主命ト改メ名ツケ  
ラレ後伊勢ノ大神主タラシメラレキトイフコトアリ大日本史大  
編宜轉補

幡ノ名ヲ以テ考フレバ彼大幡主命ヲ祀レルニヤアラム又此神ノ  
人ニヨリテ讀タマヒキトイヒツタヘタル歌アリ

アマテラスカミノヲシヘヲマヌヒトノ  
ナホキコ、ロニウケヤタモタム  
アメツチノヤシナヒタテシカヒモナク  
ホカノヲシヘヲマモルヨノヒト

此二歌倭論語トイフ物ニモ佐渡國大幡神ノ歌トテ出タリ彼  
モトヨリ疑ハシキコトモ少カラヌ物ナレド暫ク爰ニ引ケリ  
(今案ニ北狄ヲ平ケシ由ハ豐受大神宮禰宜神任次第ニ見ユルヲフルシトス是モ賀茂氏人ノ社ナル  
ベシ)

阿都久志比古神社

地壹段三畝拾八步

● 佐渡志卷之十

加茂郡長江村ニアリ九社ノ第九ニシテ加茂氏ノ遠祖ヲ祀ルトイ  
ヒ傳ヘタリ今ハ熟串彦ト書ケリ

(今案上舊事紀素盞鳴尊三世孫天日方奇日方命亦名阿田都久志尼命トアルハ日本紀及十市縣主系  
圖杯ニ鴨主命見エタル同神ニシテ賀茂氏ノ祖ナレバ社名モ是ヨリ起レリトゾ以上九社ノ事ハ  
別ニ委シキ考アレド今ハ所セケレバ省キタリ)

一宮大明神

地貳町壹段

雜太郡宮浦村ニアリ舊記ニヨルニ

順德上皇此國ニ移ラセ給ヒシ後二人ノ皇女一人ノ皇子降誕アリ御  
母ハ供奉ノ宮女三人ノ中ニ誰ニカアリケム定カナラズ 或家ノ記  
ニ御母右  
衛門佐ノ局ト記セリ此局ハ承久記ニモ供奉ノ中ニ見  
エタレバ據ナシトセズ去レド疑ヲ闕ムニハ如カス 後薨ゼサセタマヒテ  
國人ヲ神トシ祀リ一宮二宮三宮大明神ト仰ギヌ 三宮ハ官庫ノ籍ヲ  
始メ昔ヨリ親王

大明神ト一宮ノ神ハ御在世ノ時慶子姫宮ト稱シマ井ラス鎌倉ヨリ  
ノ沙汰トシテ宮浦ノ地頭本間次郎兵衛守護シ奉リキトイヘリ歌  
ヲ能セサセタマヒキトテオフケナクモ土人ノ口ニ殘レルアリ

マツアレハサトノシマナルカラサキモ  
シカスカニコソミマクホシケレ

此御歌ニアルカラサキノ 此外多カルベケレド惜ムラクハ世ニ傳ハラ  
ズ其神殿度々兵火ニ燒ケシトハ別當慶宮寺ノ大般若經ノ奥書ニ  
見エタリ 或人ノイヘラク一宮明神ノ祠建タル時ニ慶宮寺モ始メテ作リシ寺  
ニテ其由ヲ記セシ物モアリケルヲ百七八十年ノサキ住僧ノ心トシ  
テ國中ノ一ノ宮トイヒナシ彼度律神社ニナシテ世ニ逢ムトテ謀リ舊記トモ取  
捨テ新タニ附會ノ説起リテ羽茂飯岡ノ一ノ宮ノ別當ト争ヒ訴ヘケルガ官裁  
ニ及ビテ羽茂郡ノ方古證詳ナレバ慶宮寺ノ此祠ノ傍ヨリ掘出シシト云  
僧辭屈シツ此時ヨリ實説ヲ失オヘリトゾ 此祠ノ傍ヨリ掘出シシト云  
フ一ツノ瓶アリ形狀ト云ヒ古色ト云ヒ世ニ類ヒナキモノニテ殊  
ニ貴キサマナリ姫宮オハセシ時ノ物ニゾアルベキ是ヲ得タル祠  
官忽チ家衰ヘ嗣ヲ絶シトゾ此瓶今ハ目黒町熊野ノ祠中ニ移シテ



深ク納メ置ケリ其故長ケレバ記サズ又別當職慶宮寺ノ外ニ國分寺モ又故アリテ此神ニ仕ヘマ非ラスコトア程遠キヲ以テ門徒上ノ坊行泉坊ヲ慶宮寺ノ地中ニ置トイヘリ

二宮大明神

地七段壹畝貳拾步

維太郡二宮村ニアリ是モ皇女忠子ノ宮ヲ崇ム此姬宮歌ヲ能セサセタマフノミナラズ能書ニテオハセシト云ヒ傳ヘタリ其御歌トテ

マタモミム、シツカイホハタオリハシノ、  
ヲリナリスレソ、ヤマフキノハナ、  
アラヤキ、イ、イ、ヒキソフル、ハタカハ、  
ナミノアヤオル、ヒマヤナカラム、

ヲサナクオハセシトキ書セタマヒキトイヒ傳ヘタルモノ稀ニ殘レルアリ鎌倉ヨリ河原田ノ地頭本間左衛門少尉ヲシテ守護シ奉ラシム今ニ河原田ヨリ來ル道ヲ下馬坂ト唱フルナリ祠官ノ内近藤ト云者ハ  
上皇ノ御隨身藤原直家カ末トイヒ傳ヘタリ

三宮大明神

地九段八畝貳拾四步

維太郡三宮村ニアリ親王大明神トモ稱シマ非ラス此皇子ノ御名傳ハラヌ千歳ノ宮ト記シシモノアレドモ疑ハシキナリ御在世ノホド國府ノ地頭本間山城兵衛尉守護シ奉リテ建長六年甲寅十一月十八日十八歳ニテ薨ゼサセタマヒキト云傳ヘタリ此宮薨シタマ多ク記シシモノヲ見ダレバ愛ニ載ツ或家ノ記ニ大姫宮ハ嘉祿元年乙酉降誕アリテ弘安九年丙戌薨御島照ニ明神ト崇メ忠子姫宮ハ貞永改元ノ年降誕ニテ建

長元年巳酉七月菟御玉島姫大明神ト仰ギケルニ其神號トモ民ノシタハミタル  
口ニイヒニクケレバ一宮ニ宮三宮ヲ以テ稱シケルトイヘリ是等ハ家々ノ記シ  
シ所モ均シカヲ子末社ノ神ハ  
ハ本文ニハ載セズ

上皇供奉ノ人々甲斐右兵衛佐範經藤左衛門大夫康光右衛門佐ノ局  
等ヲ祀ルト古キ物ニ記セリ去レバニヤ元祿中ノ官籍ニモ唯末社  
トノミ記サレテ他祠ノ例ニ異ナリ近キ頃里民ノ望ミニヨリテ神  
號ナカラムニハ惡カルベシトテ諏訪明神ト名ヅケシトイヘリ歎  
カハシキコトナリ此社ノ地殺生ヲ禁ゼラル以下三條ノ制札ヲ立  
タリ後ニ橘ノ光行ト云人來リテ西濱ノ橘村ニモ三宮大明神ノ祠  
ヲ崇メ祭り宮ノ浦トイヘリ其祠ノ神躰ハ彼光行ガ石ヲ以テ彫ミ  
奉リキトイヘリ

大宮 權現

相殿 二宮 權現

地貳町壹畝

加茂郡上新穂村ニアリ別當ノ緣起ニハ嘉祿二年丙戌ニ創ルト記  
シ祠官等家ニハ天福元年癸巳ニ始レル由ヲ記シテ七八年ノタガ  
ヒアルナリ其傳フル所ヲ併セ考フルニ

順德上皇遷幸アラセタマヒシ後池藏人權頭比叡山ニ登リテ日吉ノ  
祠ニ祈ル趣アリ遂ニ武家ノユルシヲ得テ此國ニ下リ着シ云々ノ  
コトニモ奏セツ、地ヲ撰ビテ山王七社ヲ建トイヘリ今モ國ノ内  
ニ雙心子王 大社ニシテ總別當新延寺ノ外ニ衆徒十二坊アリ上穂  
寶性院、金剛院、三諦坊、下新穂ニ彌勒院、曼荼羅院、寶藏寺、儀定坊、定光坊、北方村ニ  
開通寺、明王院、善意寺、萬福寺是等皆今ハ國分寺ニ屬スト雖モ祭儀ヲ務メ法樂  
ニ供スルコトハ  
新延寺ニ從ハル

七社各祠官アリ別當アルモアレド新延寺是ヲ總ルトイヘリ其餘  
神人巫女ニ至リテ最も多カルベシ祭式ノ正シキヲモ此國ニシテ  
ハ雙心子ナシトゾ其中ニ七日ノ齊七度半ノ使南北ノ流鏑馬ナド、  
テ古ヘフリノ遺レルコトモ多ク神樂ノ歌モ久シキ世ヨリノコト

イヘリ

コノカミノオニハノマツノモトシケル

エタモロトモニタミモサカユル

四月中ノ申ノ日神輿七ツヲ昇フリテ様々ノ神ヲザアリ昔ハ湖水ノホトリ迄至リツレド天正ノ後ハ三四町ノ程ニテ止ルトイヘリ  
今モ此祭式ニ用キル神ハ必ズ鶴上村行屋トイフ所ニテ取也  
此處ハ湖水ノホトリナレバ是等ノ事モ故實ニアアルベキ 此祠殺生ヲ禁ゼラル以下三个條ノ制札ヲ賜ヘリテ建タリ

(名ニ據レバ大三輪大物主及神大山咋命ヲ記レルナラン今ハ日枝神社ト稱セリ)

聖眞子權現

相殿十禪師權現

地三段四畝貳拾四步

雜太郎船代村ニアリ七社ノ内ナリ

(當今日吉神社ト云フ名稱ニヨレバ田心姬命ニテ照姬ヲ配祀セルナラン)

八王子權現

地四段

加茂郡井内村ニアリ右ニ同シ

(當今日吉神社ト云フ名稱ニヨレバ天祖及五男三女ヲ配レルナラン)

客人權現

相殿三宮權現

地八段貳畝貳拾步

加茂郡大野村ニアリ右ニ同シ

(當今日吉神社ト云フ名稱ニヨレバ菊理姬命ヲ配レルナラン)

熊野權現

地四段七畝九步

維太郡畑本郷ニアリ其初メ詳ナラズ縁起一卷アレドモ證スルニ只古  
キ社ト知ラレテ

順徳上皇ノ御製トイヒ傳ヘタル中ニ

クモノウヘノツキヒヘタテ、ミクマノモ

クマナキカケハカハラサリケリ

彼忠子ノ宮ノ御歌ニ織橋トヨミ給ヒシモ此神垣ニ程近ク今モ其  
橋アリテ古キ名殘レリ天正ノ頃迄ハ雙ピナキ大社ニテゾアリケ  
ル此祠官ノ家ニ傳フル黒金安藝守ガ證狀アリ左ニ記ス

一糸持分相違無之出置候如先々熊野御宮御用等走次  
可申者也

天正十七年九月十五日 尙 信

中川彦兵衛殿

此社ノ地ト云々古へ此拜殿ニ、

順徳上皇ノ震筆ノ日神殿ノ額アリシヲ何時ノ頃カ雜太郡ノ山田村  
ノ片貝ト云所ノ羽黒權現ノ祠ニ移セシ由ニテ今カシコニアルナ

熊野權現

地壹段壹畝拾貳步

六畝拾步

租稅悉免サル

羽茂郡大石村ニアリ其始メ詳ナラズ弘安七年甲申八月元亨二年  
八月ノ棟札アリ始メテ建シハ古キコト、知ラレタリ

諏訪大明神

地五畝五步

田貳段九畝七步

租稅悉免サル

● 佐渡志卷之十

田六段壹畝貳拾壹步 租稅五分ノ四ヲ免サル

田壹畝拾五步 租稅三分ノ一ヲ免サル

圃貳町壹段步 租稅悉免サル

墾五段貳畝七步 租稅同右

雜太郡河原田町ニアリ此社古クヨリアリシニヤ河原田ノ内ニ今  
モ諏訪町トイフ地名アリ七月廿七日ノ祭儀元龜天正ノ日地頭  
ノ領セシ時ヨリ傳ハリテ今ニ廢セズトイヘリ

(今案スルニ祭神ハ建御名方神ナリ)

羽 黒 權 現

地六町四段七畝拾五步

米五石四斗

田壹段貳畝拾六步 租稅悉免サル

田壹段四畝七步 租稅半ヲ免サル

田八段六畝九步 租稅三分ノ一ヲ免サル

圃貳畝拾五步 租稅悉免サル

墾三段五畝貳拾五步 租稅悉免サル

加茂郡羽黒村ニアリ上古ハ吉井本郷ノウチ安養寺トイフ處ニア  
リシヲイツノ頃ヨリカ此處ニ移セシトイヘリ永仁三年ノ古鐘ヲ  
リ堂社并鳥居橋ナドヲ修スルトキ官林ノ材ヲ賜ル古例ナリ  
(今案スルニ稻倉魂命及大日靈尊ヲ祭トリ)

金北山權現

除米五拾八石七斗九升五合六夕

此山ノ開ケシ始知ルベカラズ其地廣ク加茂雜太ノ二郡ニ亘リテ  
北佐渡高山ノ絶頂ニアリ祭神火ノ神軻遇突智トモイヒ本地勝軍

地藏菩薩トモイヘリ古ク傳ルトコロハ始メ僅ノ禿社ナリシヲ維  
 太ノ地頭本間信濃守始テ造營ス年經テ慶長中ニ至リ國司大久保  
 石見守再ビ修造シテ一國ノ惣鎮守トス是ヨリ永ク官材ヲ以テ造  
 營セラル、コトハナリヌ斯クテ元祿ノ檢地ニモ此山ノミ其コ  
 トニ及バザリシトナリ其地高崇ニシテ輒モスレバ烈風雷震ノタ  
 メニ御堂破損スルコトアリ其度々官ヨリ造營セラル、故實形作ノ  
 露盤ニ金箔ニ漆シテ御紋ヲ居ヘタル、コト古例ナリ此山雪ノ消ル  
 コト遅ク秋ノ半ヨリ寒風烈シキヲ以テ僅ニ七八月ノ間ノミ國人參  
 詣スルナリ

(當今軻遇突智命大彥命ヲ合祀セリ)

八幡宮

地三段歩

米拾石三斗六升八合

田八段貳畝貳拾歩

墾三段歩

雜太郡八幡村ニアリ此アタリ往古ハ砂濱ニテ盪風荒ク往來ノ人  
 面ヲ向ケ難クアリシヲ明曆萬治ノ頃ヨリ松苗ヲ植テ砂垣トイフ  
 モノヲ作り數十年ヲ經テ民ノ棲家モヤ、開ケシナルベシ正徳享  
 保ノ頃迄小松ノミ生ゼシト云ヒ傳ヘタリ後人八幡ノ皇居跡ナド  
 云フコトハ皆臆說ナルベシ此社修造ノ時官林ノ材ヲ賜ハル古例ナ  
 リ

八幡村領金丸橋下川直ニ御堀替被成候然者古川與新川與の間  
 中島御座候是を八幡宮社領ニ申請度存候往古は八幡村一圓神  
 領ニテ御座候得共越後ヨリ御支配之時被召上候而唯今少も無  
 御座候條氏子を雇普請仕新田少成共堀申度候

上様御長久并銀山爲御祈念新田被仰付可被下候彌於神前御祈念可抽懇誠候以上

寛永五年辰

八幡彌宜

刑

部印

三月十一日

同

式

部印

中使

茂右衛門印

同

忠兵衛印

竹村九郎右衛門殿

右川堀替之普請仕候に付川中島迄芝間に候間新田五百町程不り可被申候重而當國誰人御代官に候共右之理可被申候我等未代迄之證人にて無之候川原に而有之を見申證人迄に乍憚裏判仕候以上

寛永五年辰三月十五日

竹村九郎右衛門印判

(今案スルニ無田別尊、氣長足姫尊、比賣神ニ祭ル)

八幡官

地貳町壹段歩

田四段壹畝貳拾七歩

墅四段八歩

米貳拾九石貳升三合三夕

加茂郡下久知村ニア、應和元年辛酉草創ストイフ本社拜殿又ハ

鳥居脩造ノ時官林ノ材ヲ賜ル例ナリ

小布施大明神

地壹段歩

圃三段四畝貳拾六歩

墅五畝三歩

租稅悉免サル

租稅同右

米七斗壹升壹合四夕

羽茂郡西三川村ニアリ明德五年甲戌五月ノ棟札ニ羽茂郡三河ト

記セリ

(越後國蒲原郡小布勢神社アリテ布勢朝臣ノ祖大彦命ヲ祀ルレバ此モシカゾアルヘキチ今ハ何チ  
カ祀レリケン)

牛頭天王

合殿

八王子

地貳段五畝拾歩

田壹段貳畝歩

租税悉免サル

羽茂郡羽茂本郷ニアリ此祠應永二十年ト享祿ノ棟札アレドモイ  
ブカシキモノナリ文化改元甲子ノ歲社人天澤豊前實因ト云モノ  
病アリテ此神ニ祈リケルニ櫻花千株ヲ栽バ其病愈ベシト夢ミテ

教ノ如クセシカバ平愈シテ七十餘歳ノ壽ヲ保チケルトイヒ傳ヘ  
タリ

(今草刈神社ト稱ス素盞鳴尊及五男三女神ヲ祀レルナラン)

犬山祇社

地貳町七段壹畝拾貳歩

墅壹段七畝拾八歩

社料米五拾苞

御祈禱料米三石五斗宛

同錢四貫四拾八文宛

湯立料五貫文宛

租税悉免サル  
春夏冬三季ニ請取  
毎月請取  
正五九月請取  
毎月請取

雜太郡相川山ノ神ニアリ此社ノ始リハ慶長ノ始ヨリ相川ノ山々  
ニ金銀ヲ出スコト往時ニ百倍シケレバ慶長十年乙巳國司大久保



石見守長安始テ此處ニ社ヲ造、安岡長門ト云モノヲ石州ヨリ遷  
ニ移ラシメテ祭祀ノコトヲ主ラシム同十二年丁未長安關東ニ  
旨アリテ京都吉田家卜部朝臣兼治此國ニ渡海シ大山姫命ヲ勸請  
シテ永ク金銀山ノ鎮守ト定ム此時社領五十苞ヲ賜ハルコト、ナ  
リ又按スルニ兼治渡海ノトキ辻將監トイフ者シテ官船ヲ以テ送迎セラルトイ  
壹貫目ヲ買セシメテ社人ニ賜ハリシカ其後竈役ヲ止テ銀山ニ出ス處ノ鑛貳拾  
五荷ニ付壹荷ツ、山ノ神鑛ト唱ヘ印銀ニカヘテ是ヲ賜ハル萬治三年ヨリ山ノ  
神鑛ヲモ公納トシ、山ノ神鑛ト唱ヘ印銀百兩宛正五九月ハ印銀八拾壹匁ヲタ  
マハリ社殿ノ修造ハ官費ヲ以テ營スルコト永式トナルトイヘリ

住吉大明神

地五段八畝步

田貳畝拾五步

圃九畝貳拾四步

墾七畝貳拾步

租稅三分ノ一ヲ免サル

租稅悉免サル

租稅同右

加茂郡住吉村ニアリ慶長四年上杉家ノ臣須賀修理ガ此社ノ祠官  
トヲボシキモノニアタヘシ古文書此村ノ民家ニ傳ヘタルアリ

かへもんもち

三百四十束疋

右出置所實也

慶四潤三月十四日

須賀印

まきよし

中務

(今案ズルニ祭神ハ表筒男中筒男底筒男ノ三神及神功皇后ナランカ)

菅原天神

地七段壹畝步

田五段五畝貳拾四步

租稅悉免サル

佐渡志卷之十

羽茂郡羽茂本郷ニアリ此社ニ傳ヘシ縁起元祿ノ頃ニ燒失シテ詳ナルコトヲシラズ別當養觀寺ノ寺中ニ於テ村民等昔ヨリ月次ノ連歌シ正五九月官廳ニ取ル例ナリ

天 滿 宮

地三段四畝步

雜太郡相川彌十郎町ノ北ノ溪澗ニアリ傳ヘイフ元國府松山大願寺ノ鎮守ナリシガ越後ノ兵此所ヘ攻入テ火ヲ放チシ時其像ヲ取オサメテ越後國象王村極樂寺ニ移シ置ヌ其後河村彦左衛門吉久此國ノコト承タマハリタル時關東ニ上ルコトアリ歸路出雲崎ノ湊ニ風ヲ持ツ或夜正シキ夢ノ告アリテ再ビ此國ニ移シテ二宮ノ觀喜寺ニ置ク此處ハ吉久ガ居タル河原田ノ城ヨリ近ケレバナルベシ幾程ノク相川ノ地府中トナリケルニゾ丸山ト云所ニ移シ崇

ム慶長十年乙巳大久保長安關東ニ申旨アリテ始テ今ノ所ニ宮居造リ彼松山大願寺ノ僧ヲ以テ別當ニ定メ月次ノ連歌ノ料拾石年々賜ルコトナリヌ

加茂大神宮

地三拾七町八畝拾步

田壹町七段六畝拾七步 租稅三分ノ一ヲ免サル

圃壹町五畝拾壹步 租稅悉免サル

暨壹町三段八畝拾壹步 租稅同右

米七石九斗六升八夕

雜太郡栗野江村ニアリ傳ヘテイフ天仁二年加茂二郎義綱朝臣流サレ給ヒシ時此社ノ拜殿ヲ建テラレ年經テ永徳元年ニ至リ本社ヲ造營ストイフ去レド其事正シク記セシモノナケレバ信ズルニ

足ラズ此國ノ郡境ノ古ク記セシモノニ雜太都ト加茂郡トノ境東  
ハ太田甲ノ瀬中ハ加茂宮ト記セシハ此社ノトニヤアルベキ明曆  
元年ニ郡境ヲ改ラレシ時モ此社ノ末社金立明神ノ社ヲ以テ境ト  
定メラレシニテ知ルベシ末社ノ神ハ諏訪明神ト金立明神トヲ祭  
レリ金立ハ玉依姫ノ命ヲ祭ルトイヘリ

(方今別雷命ニ健御名ヲ命テ合セ祀レリ永曆年中ノ開起ナリトゾ)

松崎大明神

地壹段壹畝拾貳步

田八畝拾三步

租稅三分ノ一ヲ免サル

墾五畝八步

租稅悉免サル

羽茂郡松ヶ崎村ニアリ其始メ詳ナラズ

(今案ニ春日神社同躰ニシテ天兒屋根命ヲ祭レリ)

春日大明神

地六段貳拾步

雜太郡下戸村ニアリ古記ヲ按ズルニ西濱ノ内ニ昔姫大神宮トイ  
ヘル社ア、慶長十二年コ、ニ移シテ春日大明神ト崇メ其頃ト部  
朝臣兼治卿コノ國ニ下向ノ時祠官津田ナルモノ申請ヒテ勸請セ  
リ是ヨリシテ今モ官ヨリ修造セラル、トゾ

荒貴大明神

地七段壹畝拾貳步

田壹町四段六畝貳拾壹步

租稅三分ノ一ヲ免サル

米七石貳斗四升七合五夕

雜太郡和泉村阿良氣ト云所ニアリ上古ノ社トイヒ傳ヘタレモ徵

トスベキ記録ナシ後人ノ考ヲマツノミ

(大荒木直ノ舞祖速素盞鳴尊ヲ祀レリ)

后大明神

地壹段五畝拾八歩

田四段貳拾八歩

田九段三畝拾壹歩

羽茂郡小木町ニテ、來歴分明ナラズ

善知鳥大明神

地壹段八畝歩

田九段壹歩

米貳斗

租税悉免サル

租税十分ノ一ヲ免サル

租税悉免サル

雜太郡下戸村ニアリ善知鳥ハ地名ニシテ七浦ノ惣名ト云傳ヘタ  
リ年久シキコナレバ尤分明ナラズ今ハ相川ノ鎮守トスルナリ九  
月十九日ノ祭儀ニ神興ヲ昇振テ府治ノ門ニ至ルコト其始メ詳ナ  
ラズ

(今案ニ神直日神大直日神八十在津日神底筒男尊中筒男尊表筒男尊底津少童尊中津少童尊表津少  
童尊ノ九神ヲ祭レリ仁平中ノ創立ニシテ本ハ住吉社ト稱セシテ後ニ地名ヲ取リテ改稱セシトゾ)

佐渡志卷之十終

佐渡志卷之十一

佛寺

佛法東ニ流レテヨリ日ニ盛ニ月ニ行ハレシカバ國分寺ノ類ヒハ云  
 ニ及バズ國々ツ民相競ヒ資産ヲ傾ケテ寺塔ヲ作り田圃ヲ棄テ佛地  
 トナスシカセザルモノハ人ノ數ニ入ザリシト延喜年中三善清行朝  
 臣ノ上マツラレシ封事ノ中ニ見エタレバ本朝此國ノ寺モ遠ク其頃  
 ヨリ建タルヤ多カラム其後地頭ノ時ニ至リテハ各其地ヲ裂タモチ  
 寺タテ堂作ル事ノ多キヲ以テ相誇リシ折シモ釋門宗派ヲ唱ルモノ  
 數多世ニ起リテ其徒海内ニ滿々タレバ彼レニツキ此ニツキ愈寺ノ  
 數モ多キヲ加ヘタルナルベシ去レハ古ヘ此國ニ名アリシ寺モ今ハ  
 跡カタナクナリタルモアリテ其什器他邦ニ流傳スルモノ妙ナカラ  
 ズ山城國西岡來迎院ノ鐘ノ類ヒ是リ扶桑鐘銘集ニ載ス奉鑄造梵鐘大日本國佐州羽茂郡常樂院常什諸行無

常、是生滅法、生滅已、寂滅已、樂、經曰、器世間中有十七清淨量、性形、種々色、觸三種、水地、空、雨、妙々、聲、主眷屬、祝曰、皇風永扇、帝道恩昌、天長地久、國土安康、弘長壬戌、林鐘日治、大工、藤原某、ノ九十、上杉氏此處ヲ取テ破却セシ寺多シ、又其時新タニ建タルモアルニヤ、慶長中相川ノ銀山盛リヲ得テ市街開ケ四方ノ人夥シク聚リタルバ此處ニモ多クソ寺ヲ作リ、又四五十年ノ後銀山衰ヘ人去ルニ從ヒ寺ノ數モ又半ヲ減ゼリ、正保ヨリ元祿ノ初メ迄ニ相川寺ノ三寺、溫照、密藏ノ二院、禪宗、慈德、圓通、龍泉、常徳、光徳、長榮、廣誓、西福ノ八寺、淨土宗、安養、光明ノ二寺、親鸞宗、安樂、敬音、淨福、證誠、光源、淨願、三乘、大唱、眞敬、照見、長壽、順光、專福、光徳、妙願、西入、長願、西光、高専、蓮照、淨徳、靈正、勝安、正立ノ二十四寺、日蓮宗、本行、感應、大照、妙榮ノ四寺、時宗、極樂寺、其餘尙多ケレド定カナラマラト宗派ノ明ラカナ然リト雖、凡國中ノ寺々今アルトコロ尙多ケレバ悉ク爰ニ誌シテ併セテ佛堂ト修驗家トニ及ブ

正光寺 天台宗江戸東叡山寛永寺末

寺ハ羽黒權現ノ社地ニアリ

田貳町三段六畝拾八歩 租稅半ヲ免サル

加茂郡羽黒村ニアリ、羽黒權現ノ別當タリ、此寺基ヲ創メシハ何時ノ頃ニヤ傳ル所ナシ、永仁三年乙未ノ古鐘アリ、左ニ出ス

佐州羽黒山正光寺

奉施入推鐘一口長三尺

右奉鑄志者爲陸奥守平朝臣御祈禱並結緣助成乃至天下法界平等利益故也

銅匠 藤原守重

沙彌 能主

院主僧 信 性敬白

永仁三年乙未九月日

當寺ハモト天台宗ナリシガ中頃ヨリ眞言ニ移リシヲ寛永十七年古キニ復シテ天台ニ歸伏セシ由天海僧正ノ免狀アリ

佐渡國羽黒山正光寺

一 東照官大權現於御寶前不闕且昏勤行可致天下安全之御祈禱ニ付神主社人如先例羽黑社並

東照大權現御官之諸役可相勤事

一 復先規摺台家之流於良田山長樂寺引直護摩令執行之上

者到門流衆僧守長樂寺之法流不可受餘流事

一 可專戒律若於亂行僧者早可致追放於隱置者

師弟子共可爲同罪事

一 爲門徒不可背本寺下知付別當并脇坊之門前百姓等如先

規社儀嚴密可仕事

寬永十九年極月十七日

山門三院執行探題大僧正 天 海

佐州羽黑山者從先規雖爲山門末寺景勝入國以來依被改眞言宗復先規今度天台宗歸伏之處神妙也自今以後彌守台宗

法流於神前

東照大權現御法樂天下安全御祈禱不可有慢怠者也

寬永十七年六月廿二日

山門三院執行探題法印大僧正 天 海

佐渡羽黑山 正 光 寺

新延寺延命院 天台宗江戸東叡山寬永寺末寺

地三段四畝貳拾步

田五畝四步

租稅三分ノ一ヲ免サル

圃壹段三畝步

租稅悉免サル

墅三畝八步

租稅右ニ同シ

加茂郡上新穂村ニアリ嘉祿二年丙戌開基ストイフ

順德上皇遷幸ノ後池藏人權頭清範叡山日吉ノ社ニ祈ルコトアリ

武家ノユルシヲ得テ此國ニ下。地ヲ撰テ山王七社ヲ立テ新延寺ヲ以テ別當職ヲ總司ラシメラル大宮權現ノ條ヲアハセ見ルヘシ其後遙ニ年ヲ經テ寛永十八年當時ノ住職朝尊ガ時ニ天海大僧正ニ附テ永ク其法流ヲ汲ムコトヲ願フ天海僧正天台ノ舊跡大宮ノ社ト共ニ年久シク零落セシヲイタミ且其志願ヲ憐ンデ一國天台ノ觸頭ヲ延命院ニ許シ自今山門ノ屬トシテ天下安全ノ祈ヲ抽ンズベキ旨ノ免狀アリ

佐渡國賀茂郡新穗庄日吉山山王權現者北國無双之大社也雖然天正年中依逆亂零落雖加眞言宗南北衆徒法勤行台家法流于今無退轉以執行相續之旨復天臺處神妙之至也自今以後彌山門屬直末之間抽下安全精祈佛法興隆不可有怠慢者也

寛永十八年七月十七日

山門三院執行探題大僧正 天 海

日吉山新延寺

七社衆中

佐渡國日吉山新延寺者

傳教大師雖爲開基亂國以來法流退轉之處此度朝尊重々致引直之段神妙之至也自今以後南北門中彌臺家守法流佛事勤行社役等別而天下安全御祈禱不可有怠慢者也  
寛永十九年九月十日

山門三院執行探題大僧正 天 海

遊華峯寺 眞言宗京智積院ノ末

地五百四拾九町三段六畝步

羽茂郡小比叡村ニアリ傳フル所ハ此國遠ク皇京ノ良ニ當リテ所



謂鬼門ノ方ナレバ鎮護ノ爲ニ大同ノ初空海此山ヲ開キテ小比

叡山ト名ヅケ寺ヲ蓮華峯寺ト名ヅク眞言ノ徒大和ノ室生寺紀伊ノ金剛部寺ト此ノ蓮華峯寺トテ佛金蓮ノ

三部ニアテ、同ジク幾程ナク

嵯峨天皇ノ御時ニ勅願ノ寺トセラレシトゾ然レモ承應ノ火災

ニヨリテ今傳ハレル記録モナケレバ其事定カナラズ此處ノ鎮守

ノ神山王ノ祠ニ古クヨリアリテ火災ニモレタリトイフ額アリ夫

ニ記セシヲ是求佛神一以眞言寺廣明護國祚ノ十五字ヲ彫テ由ア

ルサマニ見ユタリ此額空海ノ書トイヒ傳ヘタレモ文字ノスガタ

筆ノ心バエ空海ニハ似ザルニヤ去レモ昔ノ能書ノカキタルモノ

ニハ疑フベクモアラズ又蓮華峯寺ノ四字ヲ署書ノ跡ニ書タル額

アリ裏書ノ文字半ハ消テ定カナラズ仁和寺成就院僧正益守左大

臣殿子近江國石山座主元應二年庚申六月八日ノ字簿ク見エタリ

是等ノ外ハ古キ物傳ハラズ古ヘヨリ小比叡一村其餘西方羽茂本

郷清士岡大石村山小泊椿尾西三川倉谷井坪大浦等ノ村々ノ内ニ

テ九拾石五斗ノ地ヲ領シ慶安元年戊子十月廿四日初テ御朱

印ヲ賜ハル世々ノ僧住職ノ時并ニ七八九年ノ内一度ゾ、營中拜

禮ノコトアリ拜禮ノ時十帖一本ヲ厭シ御暇ノ時時服ニ領テ賜ル例也同ジキ三年ノ頃ノ古文書官

庫ニ殘リテ寛政ノ火災ニ燒タルヲ其前ニ寫セシ物アルヲ見レバ

前將軍家ノ下シ文八通迄アリシ由ナレモ是等皆承應ノ火災ニ燒

シナルベシ此承應ノ火災トイフハ承應元年壬辰三月辻藤左衛門信俊トイフ

チ合セ衆徒ヲ集メテ楯籠ルヲアリ討手ノ兵寺ヲ攻テ火ヲ放チシカバ籠レル者

防ギ取ヒテ或ハ死シ或ハ落失セ事平テギヌ又本坊庫裏寶藏災ニ罹リ諸堂ハ殘

リ此山ニアル空海ノ木像ハ貞觀十一年己丑醍醐寺ノ聖寶僧正此

處ニ來リ楫ノ木ヲ以テ刻ミシ由彼像ノ裏書ニ記セシトイフ又燈

籠堂ハ上杉氏ノ始メテ作レルナリトゾ此寺ノ下馬札アリ又殺生

ヲ禁セラル以下三條ノ制札ヲ賜ハリテ惣門ニ立ツ

眞光寺 山城國醍醐山光臺院ノ末寺

地三拾町九段五畝五歩

田拾町三段九畝五歩

田貳町六畝拾三歩

圃壹段三畝六歩

墅壹段八畝貳拾三歩

租稅悉免サル

租稅六分ノ五ヲ免サル

租稅悉免サル

租稅同右

維太郡眞光寺村ニアリ弘仁ノ頃基ヲ開キ古ハ雲上寺ト名ヅケシトモイヒ亦靈松寺トイヒシニ記シタルモノアリ其寺ノ傳フル所ハ勅願ノ寺ニテアリシト雖モ世遠ケレバ徵トスベキコトナシ北山權現ノ別當トナリシハ遙ニ後ノ事ト見エタリ其餘ノコト總テ記セシモノナシ此寺ノ住僧住職ノトキ及ビ七八年ノ内ニ一度ヅ、江戸ニ登リテ拜禮ヲ遂ゲ亦將軍家御世續セラル、毎ニ拜禮ヲ勤ムトイヘリ拜禮ノトキ一束一本ヲ獻シ御暇ノ時時服二領ヲ賜ルトイヘリ此寺ニ異邦ヨリ渡リシ

トイフ鐘アリ並々ノ類ヒニ非ズ世ニ稀ナルモノト思ハル元ハ久知ノ郷長安寺ノ物ナリシヲ上杉ガ兵彼寺ヨリ奪ヒテ爰ニ贈リシトイフ佛畫數多アレモ悉ク記シ難シ此地殺生ヲ禁ゼラル以下三條ノ制札ヲタテタリ

清水寺 眞言宗眞光寺末

地壹段壹畝貳拾歩

租稅悉免サル

加茂郡石名村ニアリ清水寺川ノ川上ニ擅特山ト名ヅクルアリテ釋迦ヲ安置シ梵字水ノ名高シ大同二年ノ草創トイヘド殊ニ分明ナラズ李唐ノ代ノ銅鐸アリ振聲清亮ニシテ凡品ニ非ズ寺僧ノ傳フル所ハ空海歸朝ノ時惠果和尚ヨリ將來ノ物ノ一ツトイヒ傳ヘタリ

國分寺 眞言宗山城國醍醐山報恩院ノ末寺

地百七町八段八畝 租稅悉免サル

田貳町貳段壹畝四步 租稅半ヲ免サル

田四段四畝拾貳步 租稅三分ノ一ヲ免サル

雜太郡古府ノ南ニアリ今ハ此アタリ一ツノ里トナリテ國分寺村

ト名ク 聖武天皇天平九年丁丑天下ニ 詔ノ

天平九年十一月ナルヲ詞中ニ天平十三年二月十四日ノ文見エタレバ國分寺及國分尼寺ハ續日本紀濫觴抄日本紀略扶桑略託東大寺金銅碑文杯ミナ天平十三年二月ノ創設トス然レハ又續紀十三年正月ニ國分寺ノ名見エタルヲ怪シトス然レバ猶創設ハ元享釋書ニ據リテ九年トヤスベキ思フニ九年ニ内命アリテ十三年ニ寺名ヲ定メラレケルニヤ 國毎ニ國分寺ヲ建ラレ或ハ法華經ヲ寫サシ

メ金光明經ヲ講ゼシメ或ハ七層ノ塔ヲ作リ四天王ノ像ヲ置レシ

ナドイフナリ續日本紀元享釋書此國ノ國分寺モ亦シカゾアルベキ七層ノ塔礎ハ今モ殘レ

ノ奇也 神護景雲二年戊申三月北陸道使右中辨正五位下豐野真人

出雲トイフ人奏シケルハ佐渡國造國分寺料稻壹萬束年々支ヘテ

越後國ニアリ常ニ農月ニ當リテ役夫ヲ差テ之ヲ運漕スルニ海路

風波ニ隔ラレ動モスレバ數月ヲ歷ツ漂損アルニ至テ復運脚ヲ徵

ス請フ當國ノ田租ヲ割テ用度ニ充ント乃チ其請フ所ヲ許サル續日本紀後又新造藥子佛燈分科五百束文珠會料壹千束ヲ加ヘラレキ

延喜式 承和十一年甲子佐渡ノ國司ノ上マツリシ國解ニ國分二寺

ノ僧尼ノ度緣戒條ヲ國庫ニ納ムルコトヲ申セシニヨリテ太政官

符ヲナン下サレシコトアリ類聚三 其文ヲ見ルニ此國ニ尼寺モ

リタルニヤトゾ思ハル、總テ其頃ハ僧徒多ク一方ノ大伽藍ニ

天台眞言二宗ヲ兼學ビケルトナリ去レド世替リ時移リテ中世ニ

及ビテハ萬ヅ昔ノ様ニアラザリシト見エタリ別當讓狀初メ天下

ニ作ラレシ寺ハ正安ノ頃雷火ニ燒ケ再ビ建シモ享祿二年巳丑災

ニ罹リテ悉ク燒ケヌ今モ寺ノアタリノ地ヲ穿チテ稀ニ天平ノ瓦

ヲ得ルコトアリ古色觀ツベシ多ク得易キモノハ後ニ修セシトキ

ノ瓦ナリトイフ去レバ古キ記録トモ傳ハレルトナシ地頭ノ時ノ  
下シ文纒ニ殘レリ爰ニ一二ヲ出ス

右さおむ狀國分寺上ハむかふを南ハうさひりさとの川  
西ハかさく神とい道經り峯ほしり久ほ東ハつちやすと道  
をさりそのほり地内乃田畠さおいあくせむさいのみまうせ  
て返付ハ仍爲後日之狀如件

延慶元年五月吉日

左衛門佐泰宣判

佐渡國國分寺別當職波多郷内新田一町林一段所當米六  
斗令有泰寄進者也

右村彼別當職者以佃馬坊宛行所也小破之時者且可致修理  
者也仍宛狀如件

貞治五年七月廿三日

判

左兵衛尉殿

順德上皇遷幸ノ初メ此寺ヲ假ノ御坐トセサセ給ヒキ後眞野ノ山陵

ノ事ヲモ承タマハリ末寺眞輪寺ヲシテ是ヲ守ラシム延寶七年已  
未國分寺ノ僧賢教ガ願ニヨリテ國司曾根吉正兵衛江戶ニ申ス旨

アリ頼テ陵ヲ修セラレ條ニ出セリ且賢教ニ營中拜禮ノコト仰下サ

レテ明ユ八年庚申三月十五日其事ヲ遂シヨリ永キ例トハナリ又

是ヨリ後世々ノ僧住職ノ時拜禮拾帖一卷ヲ傳ヘイフ此寺ノ本尊藥師ノ

像ハ古ク傳ハレル物ニテ山ヲ醫王山ト名ヅケシモ是ニ因レリト

ゾ又毘沙門天ノ像ハ天平ニ置シ四天王ノ一ツニシテ是モ度々ノ

火災ヲ免カレシト也寺ノ南ニ天神山天神林アリ右文章ニ見エシウサ

リナリ且其餘星カ公保ノ類ヒ今詳ナラヌ處モアリ且此天神ノ祠ニ順德上皇ノ

書セ玉ヘル祈禱二字ノ偏額アリケルヲ上杉ノ兵越後ニ移シテ上村上寺ト

トイヘリ鎮守ノ天袖モト此山ニ崇メ置シガ後ニ寺ノ傍ヘ移セシト  
ナリ寺中ノ坊宇モ昔ハ多カリシヲ處々移シテ門徒トナシ今ハ

夕寂坊寶珠院寂靜院觀行坊ノ四ツノミ殘レ、此ノ寺ノ地殺生ヲ禁ゼラル以下三條ノ制札ヲ下シ賜テ總門ノ前ニ掲ケタリ

眞輪寺 眞言宗國分寺ノ末寺

地三町七畝四步

田六段壹畝拾貳步

租稅三分ノ一ヲ免サル

維太郡眞野村ニアリ天曆四年ノ開基トイヒ傳ヘタリ

順德上皇ノ御陵ハ國分寺ノ住僧守リ奉ルベキトコロ程遠ケレハ其

末寺眞輪寺代リテ守リケルニ延寶年中國司曾根吉正江戸ニ申ス

旨アリ國分寺ハ營中拜禮ノコトヲ命ゼラレテ眞輪寺ニハ給ハル

所ノ證文左ニ記ス

覺

佐州雜太郡竹田村之内

堅五拾間  
横五拾間

此坪貳千五百坪

此屋敷高八斗七升九合七夕

内 七斗五升九合七夕

本途

内 壹斗貳升

地子

右之所 順德院御廟所爲境内從當末歲御寄附之旨御老中

被仰渡之旨向後可有支配候爲後日仍如件

延寶七未九月十三日 曾根五郎兵衛判

眞野山眞輪寺

是ヨリ先ハ樵夫牧童ノ往返ニ穢シ參ラセタル處ナルニ此時ヨリ松ヲ植テ昔ノ如ク陵ト稱スルコトニナリ又眞野川ハ古代泉澤トイヒテ文和四年游行渡船上人渡海ノ記ニ見エシ泉トイフハ是ナリ今ノ和泉村ニハアラズ

此寺古ク寫シ傳ヘシ上皇此國ニテ詠セ給ヒシ御製百首ノ和歌ア

古ヘヲ觀ツベキモノナレバ爰ニ出シツ  
風ヲタル池ノ氷ノヒマヲアラミ現ハレ出ルニホノ下道  
今朝ノ間ハ光ノトガニ霞ム日ヲ雪氣ニカヘス春ノ夕風  
フリツモル松ノ枯葉ノ深ケレハ雪マモオソキ谷ノ隱草  
難波カタ月ノ出シホノ夕映ニニソヲノ霞ノ限ヲソミル  
夢覺テマタ倦アケヌ玉タレノヒマ索メテモ匂フ梅カ香  
タカシマヤアト川柳風フケハヌレヌ下枝ニカ、ル白浪  
アサミトリ霞ノ衣フク風ニハツル、糸ヤ玉ノヲヤナギ  
夕カスミ消ユク鴈ヤ雲鳥ノアヤ織ミタル春ノコロモ手  
歸ル鴈涙ヤ秋ニカハルラム野邊ハミトリノ色ニソメ行  
秋風ニ亦コソ問ハメ津ノ國ノ生田ノ森ノ春ノアケホノ  
花鳥ノ外ニモ春ノアリ貌ニカスミテカ、ル山ノハノ月  
雪トノミ布留ノ山邊ハ埋モレツ青葉ソ花ノ印ナリケル

散マカフ四方ノ櫻ヲコキ交テヌキモト、メヌ瀧ノ白糸  
ムスヒアヘヌ春ノ夢路ノ程ナキニ幾度花ノ咲テ散ラム  
春ヨリモ花ハ幾日モナキモノヲシヒテモ惜メ鶯ノコエ  
チクマ川春ユク水ハ澄ニケリ消テ幾日ノ峯ノシラユキ  
アシ鴨ノ羽カヒノ山ノ春ノ色ニ獨マシヲヌ岩ツ、シ哉  
河ノ瀬ニ秋ヲヤ殘ヌモミチ葉ノウスキ色ナル山吹ノ花  
影シアレハヲラレヌ浪モヲラレヌ鳧汀ノ藤ノ春ノカサシニ  
ナケヤナケ信太ノ森ノ呼子鳥終ニトマヲヌ春ナラヌ共  
山城ノ常盤ノ森ハ名ノミシテ下草イソク夏ハキニケリ  
誰シカモ松ノ尾山ノアフヒ草カツラニ近ク契リ初ケン  
夏ノ日ノ木ノ間モリクル庭ノ面ニ影迄ミユル松ノ一入  
今來ムトイハヌハカリノ子規有明ノ月ノムヲサメノ空  
五月雨ノ雲井ニタカキ時鳥月ノカツラノカケ慕フラン

五月雨ハ山ノ軒ハモ朽ヌヘシ左社ウキ田ノ森ノシメ繩  
 峯ノ松入日涼キ山陰ノスツノ、小田ニサナヘトルナリ  
 トモシ、テ今宵モアケヌ玉ヲシケニムラ山ノ峯ノ横雲  
 蚊遣火ノ煙ハ人ノシワサニテオノレ曇ラヌ夏ノ夜ノ月  
 曉ノ入聲ノ鳥モ徒ラニナカヌハカリニアクルシノ、メ  
 夕霞タナ引山ノ雲ヨリモ色ノチシホニサケルナテシコ  
 限リアレハ富士ノミ雪ノ消ル日モサヘル氷室ノ山ノ下柴  
 村雨ノ雲フキスサフ夕風ニ一葉ツ、ナル玉ノヲヤナキ  
 夕立ノクモニ先タツ山風ニ秋ハナヒカヌ艸ノ葉ソナキ  
 ミソキスル加茂ノ川浪ユフカケテ糺ノ森ノ日暮ノコエ  
 時シモアレ秋ナキ色モ年浪ノナカハ越行末ノマツヤマ  
 小男鹿ノツレナキ妻モアルモノヲマツヲ恨ノ星合ノ空  
 秋風ヤ千種ナカラニ亂レケム花咲キカハス宮城野ノ原

人ナラヌ岩木モサヲニ悲シキハミツノ小島ノ秋ノ夕暮  
 爪木コル遠山人ハカヘルナリ里マテオクレ秋ノ三日月  
 ハシ鷹ノトヤノ、淺茅フミ分テオノレモ歸ル秋ノ狩人  
 秋風ノ枝吹シラル木ノマヨリホノホノ見ユル山ノ端ノ月  
 追風ニタナヒク雲ノ早ケレハ行トモ見エヌ秋ノ夜ノ月  
 月見ヨト軒端ノ萩ノ音セスハ偕モ子ヌヘシ秋ノ寐覺ハ  
 白露モ鴈ノナミタモオキナカラ我袖ツムル萩ノウハ風  
 山鳥ノウラミモ秋ヤカサヌラム八重タツ霧ノ中ノ隔ニ  
 フシワフルマカキノ竹ノ長キヨニ獨置アマル秋ノ白露  
 ヤマサトハ軒ハノ松ヲ吹カラニ鹿ノ音ナラヌ秋ノ風ソナキ  
 カコツヘキ野原ノ露モ虫ノ音モ我ヨリヨワキ秋ノ夕暮  
 更科ノ山ノアラシモ聲スミテ木曾ノ麻衣月ニウツナリ  
 霧ハレハ明日モ來テ見ム鶉鳴岩田ノ小野ハ紅葉シヌ蘭

風靡ク雲ノ行手ニ時雨フリムヲ、青キ木々ノ口ナシ  
一目ミシ十市ノ村ノハシモミヂ又モ時雨テ秋風ソフク  
谷深キヤツヲノ椿イク秋カ時雨ニモレテ年ノ經ヌラム  
幾年ノ秋ノ別ニオクレ居テフリソフ霜ノ消ルヨモナシ  
諸人ノ花スリ衣ヌキカヘテ袖ニコキ入シ形見タニナシ  
鐘ノ音ノ霜トナリユクアケカタヤ蓬カ露モ氷リ初ケム  
冬來テモ猶時アレヤ庭ノ菊コトイアソムル四方ノ嵐ニ  
三室山アキノ時雨ニ染カヘテ霜枯ノコル木々ノシタ草  
吹風モイクタヒ道ニヨワルラムミナ霜枯ノ武藏野ノ原  
清見潟クモモマカハヌ波ノ上ニ月ノ隈ナル村千鳥カナ  
亂アシノ葉末ノアキノサヨル夜ハ忍フニスレル鶴ノ毛衣  
芦ノ葉ニ隠レテ住シシホカマモ冬顯ハレテ煙タツナリ  
山オロシノ霞フキシク篠ノ上ニ鳥フミ迷フ今朝ノ狩人

駒留テシハシハユカン八橋ノ蜘蛛ニ白キケサノ泡ユキ  
フキハラフ雪氣ノ雲ノ絶々ヲ待ケル月ノ影ノサヤケサ  
甲斐カ嶺ハ山ノ姿モ埋レテ雪ノナカハニカ、ルシラ雲  
詠メヤル里タニ人ノ跡タエシ野中ノ松ニ雪ハフツツ、  
取カサス日蔭ノカツヲ繰返シ千代トソ諷フ神ノ御前ニ  
里ワカヌ春ノ隣ニナリニケリ雪間ノ梅ノハナノ夕カセ  
シケ山モ深ク入テソシラルナル浅茅カ露ノ掛ラスモ哉  
イカ、セム奥モカクレヌ笹垣ノアラハニ薄キ入ノ心ヲ  
猶フカキオクトハキケト逢コトノ忍フヲ限ル戀ノ道哉  
ヒルハ來ル遠山鳥ノ契リタニ永キ思ヒニ亂レテソフル  
偽ノナキ世ナリ共イカ、センチキリテトハヌ夕暮ノ空  
契ラスナ人ヲミルヌノヨソ乍ヲ心ノ裡ニ袖ヌラセトハ  
尋テモミヌメノ浦ニ燒シホノ煙ハソレト人モタノマン



鳥ノ音ノ曉ヨリモツラカリキオトセヌ人ノ夕暮ノソラ  
逢トミテ覺ル夢路ノ名殘タニ猶惜マル、アカツキノ空  
宵々ニ袖マキホサム人モ哉問クル月ハナミタソフナリ  
夢露ニハ通ヒテ絞ル袖タニモ人ノ涙ノヌラシヤハスル  
消ヤラヌナラハシモノヲ試ミニ玉ノ緒許リ幾世ヘヌ蘭  
雲井ニモタカ關守ノマモルラム迪フ心ノ中ノヘダテハ  
月モナホ見シ面影ハカハリケリ泣フルシテ袖ノ涙ニ  
クレヲタニ猶待ワヒシ有明ノワカキ別ニナリニケル哉  
三吉野ノ瀧ノ白波落タキリフケトモ風ノ聲モキコエス  
夕附日山ノアナタニナルマ、ニ雲ノハダテソ色變リ行  
クレストモ籠ノ里ニ宿カラム夜ヤハユカム山陰ノミチ  
ス、分ルシノニオリハヘ旅衣ホス日モシラヌ山ノ下道  
訓ニケル蘆屋ノ海士ノ哀ナリ一夜ニタニモ濡ル、袂ヲ

苦屋形枕ナカレヌウキチトモ夢ヤハ見ユルアラキ濱風  
イツテ船追風早クナリヌラシ三保ノ浦ヲニヨスル白浪  
シホ木ツム海士ノ小船ソ急クナル心トタユム宿ノ煙ニ  
ミルメホス濱ノ眞妙ノ白妙ニ日影モナヒクヲミノ浦風  
葛城ノ袖ヤ心ニワタスラム明テトタユル夢ノウキハシ  
秋風ノ吹ウラ返ス小夜衣見ハテヌ夢ハ見ルカヒモナシ  
カケロフノ命カケタル夕露ニ玉ノ緒ナカキ蛛ノ糸スチ  
キク度ニ哀トハカリイヒ捨テ幾世ノ人ノ夢ヲミツラム  
暮ル間モ恃ムモノトハナケレモシラヌソ人ノ命也ケル  
幾千代ノカケトカ神モチキリケム布留ノ社ノ杉ノ下風

弘

仁 寺

京智積院ノ末寺

地四拾壹町九段四畝拾六步

● 佐渡志卷之十一

羽茂郡羽茂本郷ニアリ傳ヘイフ弘仁年中勅ニヨリテ初テ此寺ヲ  
 建テ空海ノ弟子ニ啓道トイフ僧住タリキトゾ世移リテ後羽茂ノ  
 地頭本間氏故アリテ此處ニ倉庫ヲ建テ兵糧武具ヲ收メ置シヨリ  
 山ヲ新倉ト名ヅクトイヘリ天正中上杉ノタメニ堂塔皆破却セラ  
 レ又天和ノ頃火災ニ罹リシカバ古キ物トテハ只愛染明王ト八祖  
 トノ畫像殘レルノミ昔ノ鐘ハ越後ニ奪ハレテ彼國鉢崎ノ奥大泉  
 寺ノ物トナレリトゾ今アル鐘ハ近キ頃鑄タル物ナリ銘ノ文辭拙  
 カヲ予バ爰ニ載セツ

佐州羽茂郡新倉山弘仁寺者人王五十二代嵯峨天皇御宇  
 我弘法大師所創建也佛殿僧坊鐘樓經庫規制豐麗實一方  
 之壯觀也惜哉迨至天和壬戌遭舞馬之變所有之浮基盡爲  
 灰燼矣厥後締構漸復昔輪輿然猶無洪鐘報晨昏今住持法  
 印甚亮慨嘆有年去天明丙午之夏親上皇都損淨財許多命

冶工鑄銅鐘一口偉器已成徵銘於予峻拒不止迺爲銘  
 拔山願力、洪再鐘成、長響燭々、宵韻鏗々、  
 喚起靜慮、勉勵梵行、惟功惟德、億載無傾、

前任智積院僧正 勳 潮書

禪 長 寺

真言宗弘仁寺末

地貳町七段三畝拾八步 租稅悉免サル

田六段貳拾五步 租稅同右

田壹段八畝貳拾四步 租稅三分ノ一ヲ免サル

田壹段壹畝拾五步 租稅悉免サル

羽茂郡赤泊村ニアリ此寺ノ建シ初メ詳ナラズト雖正永仁六年戊  
 戌ノ春冷泉中納言爲兼卿此國ニ配流ノ時越後ノ寺泊ヨリ船ヲ出  
 シテ此寺ニ宿ラレシトイヒ傳ヘタレバ古ヘヨリアリタル寺ナル

ペシ 彼脚配所ニテヨマレシ歌寫シ傳ヘテ吉寶トセリ遷流ノ部ニ出ス

長谷寺 大和國小池坊ノ末寺

地貳拾貳町四段壹畝步

雜太郡長谷村ニアリ山ヲ豊山ト名ツケテ大和ノ伯瀬ノ趣ヲ寫ストイヘリ其寺ノ傳フル所ハ大同三年戊子ニ初メテ建ツトイヘド定カナラズ觀音ノ殿像アリテ土人深ク尊ブナリ其餘古キ佛像多シ上杉ノ時ノ古文書壹通アリ

長谷寺如前々脇坊共寺領無相違相渡候別而可被加懇意事尤ニ候恐惶謹言

三月四日

直江 兼 續判

鳥羽十左衛門殿

慶宮寺

山城國醍醐山釋迦院ノ末寺

地八町七段五畝拾步

聖四段三畝拾七步

田貳町八段七畝貳拾六步

圃三町壹段貳畝貳拾貳步

租稅悉免サル

租稅半ヲ免サル

租稅悉免サル

雜太郡宮浦村ニアリ其始詳ナラズ近キ頃書タルモノニハ大同二年丁亥ノ開基トアレバ元祿ノ記ニ據ルニ妄説ト思ハル猶ホ一宮大明神ノ條下ヲ合セ見ルベシ古ヘヨリ一宮大明神ノ別當職ニテ山號ヲ神護山ト云ヘリ此寺ニ十六善神ノ古畫アリ廣キ絹ニ書テ精巧ヲ盡セルモノナリ空海ヨリ傳ヘタル物トイヘリ又兩界ノ曼陀羅是モ殊ニ廣キ絹ニ金泥ヲモテ畫ケルナリ是ハ昔根來山ノ寶物ニテ彼山兵火ノ時或僧竊カニ之ヲ携ヘテ此國ニ遁レ來リタリトイヘリゲニ尋常ノモノトハ見ヘザルナリ此處ノ地頭久知加賀守ガ一宮明神ニ納メタリトイフ大般若經全部アリ保延長祿明德ハ

間ノ寫本ナリ卷毎ニ奥書アリ左ノ如シ

奉施人

久知加賀守直泰 生年五十才

明應十年辛卯月十九日

其餘保延長祿ノ年號ヲ記セシ卷モ見ヘキヨリ三百二ノ卷ト三百五十五ノ卷ニ羽茂吉井雜太ニ攻ラレシ由記シシ文字アリ一宮ノ祠二度迄燒レシトアリ直泰ハ久知官浦兩所ノ地頭ナリ

清水寺 眞言宗江戸護持院ノ末寺

地拾壹町七段九畝貳拾貳步

地壹町四畝步

田三町四段拾壹步

圃九段八畝拾八步

墅四段步

租稅半ヲ免サレ  
租稅悉免サル  
租稅同右

加茂郡大野村ニアリ京ノ清水ノ趣ヲ寫ツシ大同年中ニ建トイヒ傳ヘタレド舊記ナケレバ定カナラス

長安寺 眞言宗清水寺ノ末寺

地八段壹畝拾八步

田六段五畝拾九步

加茂郡久知河内村ニアリ傳ヘイフ天長八年辛亥基ヒヲ開キ初ハ天長寺トイヒ八宗兼學ノ寺ニテアリシトイヘリ觀應年中園ノ中將ト聞ハシ入此門ニ下リ世ノ亂レテ避テ此處ニテ舞學ヲ起コセシ時ノ古文書其餘古ク傳ハタル文書數多アリ爰ニ一二ヲ出ス

久知郷長安寺々中事

合四至

限東中尾道  
限南白出尾

限西久知大道  
限北二王道

右於寺中者可禁斷殺生之狀如件

文永八年三月日

御使 右兵衛尉藤原(北條時宗判云)

奉寄進

長安寺佛生會田

并鎮守白山御祭田

合四段半此內貳段二月御祭田

右於彼祭會新田限永代奉寄進處也天長地久寶祚榮運可被御祈禱精誠仍寄進狀如件

正中貳年八月五日

沙彌圓光

久知鄉長安寺御佛供田志奈浦仁五段半之內先司代官齋

藤入道半田於建露之由當主院主被歎申之間且者佛供田仁且者為公私御祈禱為料任先例所令寄進之狀如件

康永貳年卯月三日

僧教印

佐渡國久知鄉陽靈山長安寺舞樂開事

右於當寺雖有可被興行舞樂意趣更依無一塵祈足今默止間爰源貞泰先寄進田地雖奉加助成尚以依為其經營不足園中將亦貞泰領分勸進奉與彼舞樂祈所也令勸進處全不司成公事恩面之各々被同心合力者現在蒙神慮利生子々孫々無頂當生結佛早緣可終無為樂也如此以趣眾徒一同合掌無儀實每年三月十五日舞樂至未來永切無闕如被勤行者且天長地久寶祚榮運媒且者寺中繁昌與隆佛法到所定如件

觀應貳年辛卯八月十三日

左衛門尉貞泰

定

佐渡國長安寺條々任先規例事

一興隆佛法事

衆徒於螢雪修學並修理造營不可被加載矣

一寺田例役事

面々所役不可被闕如矣

一殺生禁斷事

此內不可被致殺生狼籍矣

一山野用物於鄉內者爲寺中隨意非制限

一從地頭方不可入使者事

一寺中檢斷事

寺中之沙汰不可綺權門之檢斷一山會合盡理非極淵庭  
依衆議可是非隨計之輕重悉可致付寺造營於齋難計事  
者輒私不可成敗上訴可仰上裁矣  
右以前條々一山別當並衆徒同心寺代々舊記不可被違失  
狀如件

觀應三年二月日

左兵衛尉源賴秀

長安寺 佛神田事

合壹町者

右於彼田地者如元可被守務加賀守源有泰之所司被致平  
愈候祈禱之誠精爲息災延命祈誠狀仍如件

應永五年十月日

加賀次郎源直泰

此寺元

順德上皇ノ書セタマヒシ陽蝦山ノ額アリシヲ越後勢ノ中ニ古藤清  
 雲軒トイフモノ取テ彼國魚沼郡上田雲洞庵トイフ寺ニ送りシト  
 イヘリ又世ニ稀ナル金剛力士ノ像アリ昔清水運慶彼上皇ヲ  
 慕ヒマヰラセテ此國ニ渡リシ時久知ノ高林トイフ所ニテハカラ  
 ス良材ヲ得テ此像ヲ作り限リナク喜ビシトイヒ傳ヘタリ此像ノ  
 骨筋ハ彼木ノ文理ノオノヅカラ叶ヒタルニテ人工トハ思ハレヌ  
 迄ノ奇作ナリ其餘數多ノ佛像アリテ其古キコトハ皆千年ニ近カ  
 ルベキモノナリ昔ハ脇坊數多アリタレド今ハ皆廢レヌ世ニ傳フル所ハ越後ノ  
 爲ノ狀ニ破却セラレシトイヘド左ニアラズ慶長四年三月朔日須賀修理ガ銀子請  
 取ノ狀ニ智藏坊大嚴淨土院普提院林照常明圓林金藏照光坊十下書キツテ子  
 ルヲ見レバ其頃マデモ坊宇アリシト見ハタリ今ハ皆廢家トナリテ此寺昔ハ  
 家毎ニ大ナル本尊ナリガノシク置キタルハ異ナルヤウニ見ハタリ  
 國ノ内ニ双ビナキ大寺ニテ本寺トイフモノニテアリシガ百五六  
 十年此方清水寺ノ末トナリ文元祿ノ頃迄ハ法性院トイフ寺コノ

寺ノ門徒ナリシガ是モ今ハ清水寺ノ門徒ニ加ハレリ又此寺ノ地  
 殺生ヲ禁ゼラル以下三條ノ制札ヲ賜ハリテ惣門ノ前ニ建テタリ

談議所坊 眞言宗山城國醍醐釋迦院ノ末寺

地五町步

田壹町三畝步

租稅半ヲ免サル

圃三段五畝拾三歩

租稅悉免サル

田圃貳段四畝貳拾歩

租稅同右

雜太郡中原村ニアリ弘仁年中基ヲ開キテ本ハ古義ノ眞言ニテアリシガ近キ世ヨリ新義ニ改ルトイヘリ此寺ニ古文書アリ左ノ如シ

無量壽院談議所憲空申佐渡國錄職之事

貞和五年十一月十三日御下文可被沙汰付憲空代之狀依

仰執達如件

觀應二年六月廿七日

筑後守

談議所憲空法印

口

宣案

上卿 北畠中納言

寬正四年三月十日

宣旨

無量壽院談議所僧都源朝臣憲海宣奉祈 聖朝安  
穩寶祚長遠抽四海泰平丹誠所天氣糺明一國僧侶  
之邪正於在違犯之輩者可及放門之沙汰天氣嚴重  
所也

藏人右中辨藤原俊顯奉

中頃無量壽院ト唱ヘ又長福寺トモイヒケルコトモア  
シガ其後 舊名ニ復セリ此寺ノ地殺生ヲ禁ゼラル以下三條ノ制札ヲ賜リテ  
惣門ニ建テタリ

妙宣寺

日蓮宗甲州身延武州池上下總中山三ヶ所輪番所

地四町四段八畝歩 租稅三分ノ一ヲ免サル  
田四段八畝八歩 租稅悉ク免サル  
圃四段壹畝拾壹歩 租稅悉ク免サル  
米貳石五升九合三夕

雜太郡阿佛坊村ニアリ文永八年日蓮此國へ謫セラレシキ十一月  
朔日ヨリ大野村塚原ニアリテ既ニ饑餓ニモ及ブキ所深夜ニ食  
ヲ餽リテ危難ヲ助ケシ遠藤左衛門爲盛ガ舊蹟ナリ爲盛始メ



順德上皇ニ仕へ奉リテ上皇此國へ遷幸アリシ時御供シテ此處ニ移  
 リ住ス仁治三年九月上皇崩御マシマシテ後剃髮シテ阿佛坊トイ  
 へリ其妻ハ右衛門佐ノ局ノ侍女ニシテ爲盛ト共ニ在家ノ僧タリ  
 按ズルニ爲盛ガ事此國ニ記シ傳ヘシモノニハ遠藤武者盛遠ガ四世ノ孫ニシテ  
 故アリテ流罪セラレ新保村ニ居ルトイヒ或ハ民部卿忠永ノ六世爲長ノ四子ニ  
 シテ盛遠ガ弟ナリトイフイブカシキコトナリ又其妻ヲ千日尼ト稱セシハ上皇  
 都ニ歸リ玉ハンコトイフイブカシキコトナリ又其妻ヲ千日尼ト稱セシハ上皇  
 テ波ニ浴シ朝日ヲ拜シテ祈請シ千日ノ功ヲ滿シカバ上皇キコシテ千日女  
 ト呼バセラレケルトイフ名ノ異ナルニ附會セシ説ト覺ユレバ信シ用ユルニタ  
 ラステ日蓮赦サレテ鎌倉ニ歸リ甲州身延ニアリシ後モ爲盛ソノ  
 德ヲ慕ヒテ屢訪ヒケルガ弘安二年ニ卒ス其子九郎盛綱相續ヒテ  
 法華經行者トナリ日蓮此國ニアリシ時常ニ左右ニ侍シテ其勞ニ  
 代ル年經テ其宅ヲ捨テ寺トナシ妙宣寺ト云フ嘉曆年中維太郡竹  
 田ノ城主本間泰昌妙宣寺ヲ居城ノ傍ニ移シ天正中ニ至リテ其子  
 孫高滋尙ホ又田園ヲ寄附シテ寺ヲ今ノ地ニ移ス其地遂ニ一村落  
 トナリテ竹田村ノ内ニテアリシヲ元祿七年竹田村ヲ分ケテ始メ

テ阿佛坊村トイフ一村ヲ置トイヘリ遠藤系歸  
古文書

此寺日蓮ノ書シシ大曼多羅北陸道七ヶ國法華棟梁ノ曼多羅其外  
 日蓮ノ消息數通及ビ古文書許多タリ此ニ一二ヲ出ス

定補師弟並別當職事

右佐渡阿闍梨日滿者於學文授法者雖爲日興弟子依有代  
 之由緒日蓮聖人御弟子也其故者聖人佐渡之國流罪之御  
 時尋參之處依一二之功彼是置本弟子六人之隆然於阿佛  
 坊者爲直御弟子蒙聖人遣相續佛法之惠命一切衆生助仁  
 法花之大棟梁也然者阿佛坊之跡相續之子孫者北陸道之  
 可爲法雄之由任日蓮聖人之御筆跡之旨日滿阿闍梨北陸  
 道七ヶ國之可爲法花之大別當者也大衆地頭可被存知此  
 旨惣日興門徒之僧侶等敢勿違失之若背此旨之輩者可爲  
 大謗法也仍置狀如件

元弘二年十月十六日

日 與

御免寺之事被聞食訖不可有子細旨所被仰出也仍執達如  
件

天文三年甲午三月日

本間之四郎高滋

佐州雜太郡武田阿佛坊

佐州雜太郡竹田村阿佛房北陸道七ヶ國之統領仍執達如  
件

天文三年甲午三月日

本間之四郎高滋

阿佛坊

制札

竹田村

右於當地諸軍勢濫妨狼藉並竹木剪採事堅令停止畢若違  
犯之輩有之候者於立所可加成敗由 仰出被成御朱印者  
也仍如件

天正十七年六月日

奉行中

阿佛坊

此寺ノ境内ニ日野權中納言資朝卿ノ墓アリ委シテ古跡ノ條ニ出ス又古クヨリ  
傳フル所ノ彼卿書寫ノ法華經一部アリ丈一寸八九分ノ紙ヲ卷テ  
如何ニモ細カニ書レタルガ疑ヒモナク五百年前ノ物トゾ見ヘタ  
ル其奥ニ記ス所左ノ如シ

右經當尊考幽靈忌月爲功德增進書之

前黃門侍郎資朝

元德三年辛未五月廿一日

右經慈母幽儀當七々忌爲功德增進書之

元德三年辛未七月七日

前權中納言藤原資朝

根 本 寺 日蓮宗甲州身延武州池上下總中山三ヶ寺輪番所

地六町五段九畝六步

田貳町三段九畝貳拾四步租稅悉免サル

墾壹段五畝步 租稅同右

加茂郡大野村ニアリテ蓮師謫居ノ舊蹟ナリ文永八年辛未十月廿八日越後ノ國寺泊ヨリ此國松ヶ崎ニ着岸小倉ノ山ヲ經テ十一月朔日此村塚原トテ國人ノ尸ヲ送ル野ニ草ノ庵アルヲ謫居トシテ

國府ノ本間ガ心ニ任セ此所ニ棄置マサラス遠藤爲盛夫婦ノモノ深夜ニ食ヲ贈リシ此時ノ事ナリ後星霜ヲ經テ天文二十一年壬子大泉坊日成トイフ僧蓮帥ノ舊跡ヲ訪ヒテ此所ニ至リ初テ一字ヲ草創シテ根本寺ト號セリトイヘリ此寺ノ傍ニ慶長ノ頃或僧一寺ヲ建テ正教寺ト名ツク寛文年中ニ廢ストイフ

此寺ノ境内ニ吊犬塚アリ往昔日蓮爰ニアラレシ時其ガテ嫉ムモノアリテ食ノ中ニ毒ヲ入レテ送リシカバ蓮帥思フ處ヤオハシケン頓テ傍ナル犬ニ與ヘラル、ニ其犬忽チ斃レケレバ竊ニ事ノ由ヲ遠藤爲盛ニ告ラル爲盛之レヲ聞テ彼犬帥ノ坊ノ御爲ニ死セシコトヲ深ク憐レミ一ツノ塚ヲ作りテ吊ラヒケルトナリ

實 相 寺 根本寺末

地七町四段八畝貳拾四步

● 佐渡志卷之十一

田壹畝貳拾壹步

租稅三分ノ一ヲ免サル

雜太郡市野澤村ニアリ日蓮市野澤ニアラシ時毎朝此山ニ登リテ朝日ヲ拜セラレ其時傍ナル松ニ袈裟ヲ掛ラル袈裟掛ノ松トモイフ今ハ其松枯ケル故其上ニ一字ヲ建テ之レヲ掩フ本間重遠此處ニ隱居シテ蓮性房日永トイヒ山ヲ小松山ト呼ベリトゾ

本行寺 根本寺末

地壹段五畝步

田五畝貳拾壹步

租稅三分ノ一ヲ免サル

羽茂郡松ヶ崎村ニアリ文永八年日蓮流サレタル時越後ノ寺泊ヨリ船ヲ出シテ十月二十八日甲ノ瀬ト云處ニ着ク此所ノ明神童子ノ形ヲ現ハシテ日蓮ヲ伴ヒ空木ノ中ニ誘ヒテ酒ヲ勸メシトナリ此時ノ杯ナルモ此寺ニ傳ヘテ寶トセリ此空木ハ樺ナリトテ今

モ葉生暢茂シテ長四丈五尺圍二丈ニアマレリ

妙照寺

甲州身延久遠寺支配

地五町五段八畝廿四步

田貳段三畝廿壹步

租稅三分ノ一ヲ免サル

野六畝貳拾四步

租稅悉免サル

雜太郡市野澤村ニアリ文永八年日蓮謫居ノ時塚原ニアリシニ其地國府ヨリ程近シ人々宗風ニ傾キタルヲ留ムトテ國府ノ本間ガ計ヒニヨリ同シキ九年四月七日一ノ谷ニ移ス近藤伊豫守清久ヲシテ監守セシムト改メ又今ノ名ニ改ムト云フ清久ハ本間六郎左衛門重遠ガ家臣ニシテ此地ニ居レリ其子小次郎信重ト共ニ蓮師ヲ欽仰ズ清久ガ一族覺靜坊日靜トイフ僧深ク其徳ヲ信シテ奉侍セリ日蓮赦サレテ鎌倉ニ歸リシ後其處ニ一字ヲ建ツ後日蓮身延山ニア

リテ寺號法華山妙照寺ト名付シトイヘリ此寺文永九年四月雜太  
ノ地頭ヨリ近藤伊豫守清久ガ許ヘ送リテ日蓮ヲ此處ニ移セシ時  
ノ古文書又同シキ十一年三月進師ノ親弟日朗ガ携ヘ來リシ赦免  
狀其頃寫セシモノ其他古クヨリ傳ヘシモノ多クアリ爰ニ一二ヲ  
出ス

清久老

本左近

此流人日蓮僧非可蔑從錄倉在制狀堅番衆可申付者也

四月七日

勝利

近伊州入道清久

御判

日蓮法師御勘氣事有御免許之由所被仰下也早可被赦免  
之由候也仍執達如件

文永十一年二月十六日

兵部丞行

山城兵衛入道殿

日蓮此度被赦免錄倉ハ登ルにてハ如我昔所願今者已滿  
足當此年加遠藤殿無御育者可命永哉不可預赦免にもヤ  
日蓮一代之行功の偏左衛門殿等遊ヒ處也御經にて諸  
童子以爲給使刀杖不加毒不能害も候得者難有御經哉然  
者左衛門殿梵天釋天之御使にてましまさしか靈山々の契  
約此判をまゝいらせし一度を未來々待せ給へ於靈山日蓮  
ヨリ呼玉へ其時御迎に可罷出候猶又錄倉より可申進也  
文永十一年甲戌三月十二日 日蓮

遠藤左衛門尉殿

妙經寺 甲州身延山久遠寺末寺

地三段九畝三步

圃九段貳拾九步

租稅悉免サル

雄太郡中原村ニアリ明應二年癸巳此寺ノ住僧日應ガ筆記ヲ考フルニ始メ日蓮市野澤ニ謫居ノ時監守セシ近藤伊豫守清久ノ息中興小次郎信重ガ舊跡ナリ信重中興村ニ住ス世ニ中興入道トイフ是レナリ信重夫婦深ク日蓮ヲ信シ文永九年九月中興村ノ内ニ庵ヲ作りテ法華堂トイヒテ其處ニ請シマヰラス其子孫舊跡ヲ續テ此堂ヲ崇敬シ累代ノ位牌ヲ置ク應永ノ頃ニ至リテ信重ガ四代ノ孫中興左衛門勝重トイフモノ、時ニ鎌倉ヨリ日清トイフ僧來リシカバ勝重是ト計リテ一寺ヲ作ラムト欲ス日清頓テ法華堂ヲ改テ法華山妙經寺ト號ス寛正三年此寺ノ檀那中興源五郎信之トイフモノ一族ト共ニ居ヲ和泉ノ郷五丁ノ木トイフ處ニ移セシ時此

寺モ同シク其所ニ移リ又以上日應年記年經テ弘治九年再ビ寺ヲ今ノ地ニ移ストイヘ、此寺天正十七年九月上杉景勝卿ノ制札ト慶安九年七月國司大久保長安ノ制札ヲ傳ヘタリ

世尊寺 駿州富士郡北山本國寺末寺

地壹町七段七畝步

田貳段三畝貳拾貳步

租稅三分ノ一ヲ免サル

維太郡竹田村ニアリ此寺ノ來歴サダカナラズ日蓮抄出一軸アリ古ク傳フル處ノ文書左ニ記ス

於永代而諸やくなく此地を進申處爲後日也仍如件

泉澤小四郎

世尊寺様參

天正十年三月十三日

本光寺 京都本國寺末寺

地六段六畝步

雜太郡後山村ニアリ日蓮赦免ノ時親弟日朗赦免ノ狀ヲ携ヘ來、  
テ一宿ノ古跡ナリ

安隆寺 京都妙顯寺末寺

地六段六畝步

圃壹段四畝三步

租稅悉免サル

羽茂郡小木町ニア、日蓮赦免ノ事ヲ告ムトテ文永十一年三月八  
日門徒日朗渡海セシ時着岸ノ古跡ナリ此寺ニ胡元ノ至元年中ノ  
古寫本紺紙銀泥ノ法華經アリ筆畫精良觀ツベキモノナリ奥書左  
ニ記ス此寺ニ全シク至元ノ年號ヲ鑄シ古キ銅鑿アリ音響鏗鏘トシテ尋  
常ノ物ニアラザリシガ近キ世ニ失ヒシトナリ惜ムベキコトニコソ

至元廿二年乙酉五月日時爲我所傷水陸飛沈一切衆生伏  
我功德因緣發菩提心成等正覺兼及己身現世逢九橫當生  
淨土化度群生又願小男大願寶休病厄消除壽命延長成就  
大願一門眷屬消災解厄福壽增延亡久遠離苦生天法界含  
靈俱霑利樂爾

右散騎尙書上將軍廉休一母誌

大願寺 時宗相模國藤澤清淨光寺末寺

地貳町三段六畝步

圃六段八畝廿三步

地貳町八段壹畝拾步 租稅悉免サル

雜太郡古府ノ西四日町村ニアリ此寺貞和ノ頃基ヲ開テ初メハ府  
中橋本ノ道場トイヒシハ國府川ノ橋ニ近ケレバニヤ松山ハ元ヨ

リ地名ナルベシ其頃了阿トイヘル修行者元ハ朝廷ニ仕ヘシ人ノ  
世ニ沈テ茲ニ來リ隱レシガ菅公ノ木像ノイト古キヲ此松山ニ置  
又彼人齡モ徳モ高カリケレバ地頭等尊ビテ此道場ニ留ムトセシ  
カドウケガハズニ宮村ニアル山下ノ寮トイフニ移リ住テ月ノ夕  
花ノ朝松山ニ來リ人々ヲ集テ歌ヨム事ヲ常トセシトゾ了阿ノ讀  
タル歌多カル中ニ

ヲシマレテトクチルハナモアルモノヲ

ミハイツマテカクナノコルラム

クモミツニマカセハナタルミニシアレト

ツ井ノスミカラナホトメツ、

程ナク山下ノ寮ニテ世ヲ去シトソ山下ノ寮ハ今ノ歡喜寺ナリ彼ノ條見ルヘシ其後モ松山

道場ニハ常ニ會延アリ又月並ノ連歌トイフ事モ始リキ連歌ハ文藝

寺ニテ會セシト言ヒ傳フルナリ文和四年乙未遊行八世渡船ト聞ヘシ僧此國ニ渡リ

シ時本間佐渡守歡ビ迎ヘテ三月廿日餘ヲヨリ七月廿九日迄府中  
ニ留メ又此間折ニフレテ詠草アリ五月五日ハ松山ニテ定マレル  
會ナリケレバ人々ト共ニ題ヲ探リテ渡船ノ讀タル歌

山家郭公

ホト、キスタレニシキケトヒトスマヌ

ミヤマカクレニヒトナクラム

海邊梅雨

シホヤカヌアマノスミカモフリニケリ

ケフリタエタルサミタレノコロ

釋教

トキオキシヨロツノ、リノナカニナホ

ミダノチカヒソヨニハコエタル

以上遊行  
渡海証 年ヘテ後大願寺ト改タメ多クノ坊舎ヲ建連子ケルニ天正



十七年己丑ノ夏上杉が兵國府ヲ攻ルトテ先此寺ニ火ヲ放チ悉ク  
燒ヌ唯菅公ノ像ト祖師一遍ノ書タル物トヲ幸ニシテ燒ザリシ  
トイヘリ菅公ノ像ノコトハ相川大願寺  
天神祠ノ條ト照シ見ルヘシ

稱 光 寺 時宗相模國藤澤清淨光寺末寺

地四畝拾參步

羽茂郡宿根木村ニアリ貞和中越後國應聲寺ヨリ託岸トイフ僧ヲ  
渡シテ始テ一字ノ庵ヲ建テ之レヲ三岬ノ道場ト名ヅク文和四年  
乙未遊行渡船國々ヲ巡リテ三月十三日此處ニ着ク此時三岬ヨリ  
船ヲ出シテ迎ヘシトイフナリ緣記ニハ庵主託岸トアリ遊行渡船ノ記ニ  
ハ能阿ト見ヘタリ能阿ハ乃チ託岸カコト  
ナル斯テ此道場ニ留マルコト十日バカヲ夫ヨリ府中ニ移リテ後  
再ビ茲ニ歸リ八月七日纜ヲ解キ越後ノ柏崎ニ渡レリ遊行渡船  
海記  
コノ處ニ錫ヲ卓シアイタ或日窟ノ觀音ニ詣テ讀ル歌緣記

此國ノ補陀落山ハコレソコノ

救世ノチカヒロタノメモロ人

窟ハ道場ヲ距ルコト一里バカリ高キ山ノ半ニアリテ深キ事其限  
ヲ知ル人ナシトイヘリ稱光寺ト名ヅケシハ何ノ頃ニヤ思フニ文  
和ヨリ年ヘテ後ナルベシ緣記ニハ始メヨリ海徳山稱光寺ト言シヨシ  
記シタレド誤リナリ其支證長ケレバ洩シツ

佐渡志卷之十二

古蹟

此國名所トイフモノ和歌者流ノ口實トスルトコロナレモ二十一代  
ノ勅撰ニモ載セラレス宗札法師カ渡海ノ記ナトイフモノハ後人ノ  
杜撰ナレハ素ヨリ論スルニダラス今其一々イハ、五月雨山越ノ湖  
ナトイヘルハ最モ人ノ稱スル所ニシテ冷泉中納言爲兼卿當國ニ居  
タマヒシ時ノ歌ナリトテ年ヲヘテツモリシ越ノ湖ハ五月雨山ノ森  
ノ雫カ又貫之朝臣俊成卿ノ歌ヲヒキ宗祇カ大原三吟ノ連歌ニヨリ  
テ名所ノ由ヲイヘト越ノ湖佐渡ナル由ハ前ノ古歌ニモ正シク其レ  
トハミエス況ムヤ大原三吟ノ論ノ如キ宗祇カ一時ノ言ニシテ證ヲ  
引テ答ヘシニハアラス且文明中宗忍法師カ當國ニ渡リテ此湖ヲ過  
テヨメル歌ニ亂レ蘆ノカル、折シモオノレノミ青葉ソミユル鴨ノ

湖此人ハ宗祇カ弟子ナドイヘハ越ノ湖誠ニコ、ナラムニハ鴨ノ湖トハヨムヘキニアラス亦文明ノ頃圓阿トイヘル法師ノコ、ニテヨミタル哥ノ懷紙ノ傳ルヲミシニ湊江ノ浪ノヨルヨルアシカモノウキ子ノ床ヤワヒシカルヲントアリ疑フヘキコトナリ去レハ是等ノ類記シ傳フルヲ符サルコト推シテ知ルヘシ只古蹟ノ殘レルハ後ノ世ニ傳ヘ失ハンコトヲ恐レ其說ノ正シキヲ擧ゲテ爰ニ記ス

古府

古ヘノ國府雜太郡ニ置レシコト源順朝臣ノ和名類聚抄ニ載ラレ遊行八世渡船上人文和年中渡海記ニモ府中ニ移リシ時本間カ一族渴仰シケル由ヲ記シ殊ニハ國分寺モ古ヘヨリ雜太郡ノ内ニアリテ今モ國分寺村トテ一村アレハ旁雜太郡今地名民間ニ澤田ト唱フル所是ナリト見エタリ檀風ノ古城ハ今ノ竹田村ノ田間ニ古

跡アレモ澤田ノ中央ナリ此城ヲ古ヘ檀風トイヒシ事ハ資朝卿ノ哥ニ秋タケシ檀ノ梢フク風ニ澤田ノ里ハ紅葉シニケリ此哥ヨリ出テ世ニ行ル、謠曲ニモ檀風トイフ一闕アリ彼卿ノ息阿新仇ヲ報イシコトヲ演ヘタリ古府ヨリ西ノ方ニ城戸街道トイフ處アリテ今小川内ノ眞樂寺是レナリ藤原爲則藤原爲則衛門尉衛門尉カ歌トテ書傳ヘシ中ニ

コ、モマタ都ノ春ニ似タルカナ柳櫻ノ錦戸ノ里

佐渡ノ海ノ戀ノ浦波トコトハニヨルトハスレト歸ル日モナシ

浦チカグ落合水ノ細江川濁ルヤ民ノ田草トモラム

細江川ハマタ高館川トモイフ後ニ國府川開ケテヨリコノ細江川ハ名ノミ殘レリ

皇陵

雖大郡眞野村ニア、承久三年辛巳七月廿日北條義時カ計ヒトシ  
 テ三上皇ヲ遠國ニ遷シ參ヲセシ時、順徳上皇ヲハ佐渡國ニ遷幸  
 ナシ奉ル本日御供ニハ冷泉中將爲家花山院少將能久上北面ニハ  
 甲斐右兵衛佐則經藤左衛門大夫安元女房ニハ右衛門佐局以下三  
 人參リタ。斯クハ聞エシカトモ爲家朝臣ハ御送ニモマ井ラレス  
 花山院少將ハ路ヨ、勞ルコトアリトテ歸リ上ラレケレバイト、  
 御心細クオホシメシケル越後國寺泊ニ着セタマヒテ御船ニ召レ  
 ゲルニ右兵衛佐則經病危カリケレハ御船ニモ入ラスシテ、メ  
 ラレケルカ頓テ彼所ニテ空シクナリヌ御船コト國ニ着キシ時ノ  
 御製トテ  
 イサ、ヲハ磯打浪ニ事間ハム隱岐ノ方ニハ何事カアル

(今案ニ承久記ニ是歌見エズ浦々ニヨスル白浪コトトハノキノガコソキホシケレトアリテ  
 阿波院ノ御製トセリ余別ニ説アレド長ケレハイハズ)

斯テ後御送ノ者共御輿カキ迄モ御名殘惜マセ玉ヒテ今日許リ明  
 日ハカリト留サセ玉ヒシトソ以上承頓テ今ノ國分寺ニ置奉リ又  
 泉村黒木ノ御所ヲ作リテ移シ居奉レリ此時皇居シノラレシ處ハ戀カ  
 テ御徒然ノ餘リ都忘トイフ白菊ヲ殖テ愛サセ玉ヒシカ後ノ世マテモ殘リテ此  
 アタリノ叢ニハ稀ニ咲ヨシク云リ又其後眞野ヨリ二里隔テシ八幡ノ里ニモ遷  
 リオハシマシ由文明年中ニ記シ皇陵記トイフモ人及ヒ此國ノ風此國ニ  
 土記ナトイフモノニ記シタレト其説疑ハシキ事少ナカラ子ハ省キツ此國ニ  
 マシマスホト所々ニテノ御製トテ傳ハレルモノアリ御サスカラ  
 海中ニ落シタマヒシ時讀セタモフトイヘル  
 ツカノマモ身ヲハナタシトチキリシ浪ノ底ニモサヤ思フ  
 ラム

此御製ハ當國立島トイフ所ニテ御船ノ中ニテ物ヲケツラセタマウ時御小刀ヲ  
 海中へ落シ給ヒシ時詠セタマフトモ又ハ御船遊ヒノ時ノ事トモイヘト疑ハシ  
 ケレハ泉村ニテヨマセタマフトイフ

(今案ニ是歌普通ニハ八幡里ニテノ御製トスレドイト怪シ恐クハ是國ノ歌ニハアラジ神社務蒙和  
 訓彙共ニ隱岐ニテ御鳥羽天皇ノ御製トセリ)

ナケハ聞クキケハ都ノ戀シキニ此里スキヨ山杜鵑

熊野ノ社アル所ニテヨマセタマヒシトイヘル

雲ノ上ノ月日隔テ、ミ熊野モクマナキ影ハ變ラサリケリ

柳ケ壺ト云フ所ニテ詠セ給フトイヘル

今宵フク柳カ壺ノ秋風ニ其キリツホノ月ヤ澄ラム

此國ニマシ、テ隱岐ノ御所阿波ノ御所ノ御事朝夕思召シ出サ

セ玉ヒテアル時ノ御製ニ

浮世ニハカ、レトテ社生レケメコトワリシヲ又我カ涙哉

(今案ニ是歌土御門院御集承久三年御製百首ノ中ニ在リ承久記増鏡モ共ニ中ノ院ノ御製トセリ是書ハ皇陵記ニ因リテアヤマレリ)

アル民ノ家ニテヨマセタマフトイヘル

斯迄ニ身ノアタ、マル草ノ實ヲヒエノ幣トハ誰カ云ラム

隱岐院崩レサセ玉ヒテ煙トナシ奉リシヲ大原ノ奥ト遷サル、ヨ

シ聞召テ詠セ給フトイフ

イル月ノオホロノ清水イカニメ終ニスムヘキ影ヲトムラム

眞野ニテヨマセタマフトイヘル

思ヒキヤ雲ノ果迄流レ來テ眞野ノ入江ニクチ果ムトハ

御供ニ候シケル遠藤左衛門尉爲盛カヨメル歌トテ書傳ヘタルアリ

君マセハコ、モ都ト思フニソワカ古里ハ戀シクモナキ

斯テ廿二年ノ春秋ヲ此國ニ送り迎ヘ給ヒテ仁治三年壬寅九月十

二日崩御アリ御隨身後池藏人權頭清範淨地ヲトメ泉澤ト云所ニ

陵ヲ營ミ

或説ニイフ上皇崩御アリシカトモ御遠所ニテモ京都ニテモ御

佛事ヲ營マス御骨入洛ノ後ニ至リテ執行ハルベキ旨御遺誠ノ

由ヲ載タリ然レハ此國ニテ煙トシ奉リ明ル寛元元年五月十三

日新院御骨ヲ大原ノ法華堂ノ側ニ納ムトアリ大日本史清範其御灰

ヲ集メテ陵ヲ營ナミケルニヤ正シク尊骸ヲ納タルニハアヲサ  
 ルベシ今ノ陵ノ南ニ當リ經塚トイフ山アリ甚々峻峻ニノ常ニ  
 人跡ヲダツ其カミ清範地ヲ撰テ此山ノ頂ニ上皇ノ御宸翰又ハ  
 御誦讀ノ御經等ヲ焚テ埋メ又此國邊陲ノ土地ナレハ年經テ里  
 人ノ御舊跡ヲ疑ハントヲ畏テオケナクモ小サキ尊像ヲ彫リ  
 奉リタリトテ今ニ眞輪寺ニ崇メ傳ヘタリ

陵ノ事ヲハ國分寺ニ總司トラシム是レ往年遷幸ノ時彼寺ヲ以テ  
 御座所トナサセ玉ヒシガ故ナルベシ遙ニ年經テ陵モ荆榛路ヲ遮  
 リ淺間敷ナリ行シヲ延寶七年己未國司曾根五郎兵衛吉正關東ニ  
 申旨アリテ新タニ五十間四面ノ地ヲ寄附セラレ國分寺ノ末寺眞  
 輪寺ヲ以テ護リトス年代或人ノ家ニ上皇ノ弄ハセタマヒキトイ  
 フ御扇面御釣花瓶アリ何レモ疑フベキニアラズ委シクハ圖ヲ見  
 テシルベシ此御扇面御釣花瓶今ハ縣社眞野宮ノ寶物トナレリ

按スルニ今陵近キアタリニ林ノ江トイフ所アリテ百姓七家ア  
 リ昔シ供御料ノ百姓ニテアリシ由ヲ傳ヘテ此中二人ハ御宮仕  
 セシ者ノ後ナリトイヒ傳ヘテ今ニ承仕屋敷トヨヒテ二人ノ者  
 カ家ヨリ毎年ノ正月眞輪寺ノ邊リナル彌陀堂ニ門松ヲ立ル事  
 ナリ此彌陀堂ハ古ノ堂ノ平ノアタリニアリシカ炎燒ノ後眞輪  
 寺ノ近キニ移シトソ云ナル

權中納言藤原資朝卿墓

雜太郡阿佛坊村妙宣寺ノ境内ニアリ小サキ石ヲ五輪ノ形ニ作リ  
 テ五百年前ノ物ナル事疑フベクモアラズ此卿正中二年乙丑十二  
 月當國ニ流サル其事世ノ知ル所ナレハ省キツ鎌倉ノ沙汰トシテ  
 正慶元年壬辰五月二十九日國府ノ地頭本間山城兵衛尉其一族本  
 間三郎ヲシテ失ヒマ井ヲス  
 此卿ヲ失ヒマ井ヲセシ地ハ國府大城戸ノ西南岩野トイフ所ナリ

トモイヒ又ハ松山ノ後國府ノ古川ノ傍ヲナリトモイヘリ兼テ思  
ヒ設ケシ由宜ヒテ辭世ノ偈作りテ心靜ニ切ラレサセタマヒキト  
イヘリ素ヨリ禪ヲ好ミ玉ヒテ和翁ト號セリ大日本史

五蘊假成形 四大今歸空 將首當白刃 截斷一陳風

此折シモ子息阿新後ニ中納言 邦光トイフ尋子來リテ入道カモトニオハセシカ  
逢コトヲ許サレヌ父ノ卿切ラレ給ヒシカ深ク怨テ夜ニ紛レテ入  
道カ聞ニ忍ヒ入差殺サムト計ラレケルニ其夜ハ入道常ノ臥所ヲ  
カヘテ爰ニアラズ彼太刀取セシ本間三郎臥居ケレハ彼ヲ討テ立  
去リツ、商人船ノ便リヲ頼ミ越前國ニ着キシコト、モ皆人ノ口  
ニ殘リ止マリテ普ク世ノ知ル所ナレハ委シクハ記スニ及ハス阿  
新ノ隱レ松ト云フ所アルナリ妙宣寺ノ條ナリ 併セ見ルベシ

(今案ニ是偽増鏡ニハ四大本無主五温本來空將ノ頭傾ニ白及但如鏡夏風トアリ本誓ハ太平記  
ニミリシモノナリ大日本史ノ注ニ云ク按此偽晉僧榮隆刑偈也トアリ)

二見池

雜太郡二見村ニアリト云ヒ又同郡橋村ヨリ山越シテ二見へ行處  
ニアル池ナリトモイヘリ或ハ中山舟ガ澤ノ當リニ二見村ノ百姓  
家ニ軒アリ此アタリナリトモ云ヒテ各其形ハカリ殘リタレ何  
レモ信ズルニタラザレバ其跡定カナラズト云フベシ  
順德上皇ノ御製ノ詩歌トテ傳ハレリ

西風妬明月 浮雲重疊生 今夜不看月 雙眼如喪明  
月モ猶ミ又面影ノ替リケリ泣フルシテ袖ノ涙ニ  
二見二股岩 觀音ノ古縁起

御所櫻

羽茂郡小木村海潮寺ニアリ花ハ薄紅ノ二重ナルカ殊ニ葩大キヤ  
● 佐渡志卷之十二

カニシテ其香ノ深キヲ又類ヒナク尋常ノ櫻ニハ似ルベクモアラズ傳ヘテ云フラク昔

順德上皇極テ櫻ヲ愛サセ給ヒ遷幸ノ後人シテ都ヨリ數種ノ花ヲ召レ泉村黒木御所ノ南ニソ栽サセラレケル其中ニ此一種ノミ水土ニ合サレハ重テ御親ヲ所ヲ撰ハセ給ヒ爰ニ移シテ栽置セ玉ヒケルトナリ中頃迄ハ世ニ稀ナル老木ニテヤ有ケム越後國ノ古キ童謡ニモ佐渡ノ三崎ノ御所櫻枝ハ越後ニト謠ヒ又何時ノ頃カ枯ルヲ二度ニ及ビテ今ハ其葉生ナリト云ヘリ海潮寺縁起ト云フモノハ怪終ニ其末ニ出セリ今爰ニ記ス所ハ加茂郡井内村ノ神職本間某ト云フモノ、家ノ舊記ニ從フ

葦梅

加茂郡梅津村眞法院ニアリ花ハ薄紅ニシテ初メ延文ノ頃枯テ後年ヲ隔テ又若木生出シヨリ今ニ至ル迄或ハ枯或ハ朽ルト雖モ其

根ヨリ必葉生アリテ尋常ニ替リ若木ト雖モ葦深ク其葦ノ中ニ花籠レル故ニ名ヲ葦梅ト云ヘリ昔ハ梅昌寺ト云ヘル禪院此梅ヲ守リシガ文祿ノ水災ニ寺流レケレバ後亦此患アラムヲ恐レテ梅ヲ捨置テ同シ村ノ内隔ル方ニ移リ又年經テ後心アル僧一寺ヲ建テ眞法院ト名ヅケ永ク此樹ヲ守ルトイヘリ

未開紅

此梅維太郡竹田村大運寺ニアリ蕾ハ薄紅ニシテ開キテ後ハ尋常ノ梅ナリ天正ノ頃高坂彈正カ姪春日惣次郎トイフモノ此國ニ道レ來リ大運寺ノ羅漢堂ニ寓居シテ此所ニテ亡クナリケルガ鉢植ノ梅ヲ携ヘ來リ爰ニ植シトイフナリ惣次郎ハ瘤ヲ煩ヒテ世ヲ早クシキトイヘリ



冷泉中納言爲兼卿古跡

雜太郡畑郷ニアリ永仁年中此卿流サレテ此國ニオハセシ時或年ノ九月十三夜此處ニ遊ハレテ月ヲ賞セラレシコトアリ細トイフ所ハ人々忍ヒテマカリ侍ルニヨメル

名殘アル月ノ影哉雁ナキテ菊咲ニホフケフノ今宵ハ

秋モ早ナホトイヒツ、三ノ月空曇リ果スモ澄ル月哉集家

十ノ月ノ流サレタルヘシ

文覺上人墓

雜太郡太久保村眞禪寺後ノ山ニアリ正治元年高雄ノ文覺上人流サレテ此國ニ來リ大日本史ニ百練抄皇帝紀抄ヲ引テ文覺佐渡ニ配流トアリ平家物語ニ隱岐ヘ流サレテ死ストアルハ誤リナルベシ守護人ニ語リケルハ我齡既ニ傾キ又今幾程カ此世ニアルベキ亡カラム跡ヲ人間ニ遺サレムコトコソ安カヲ子同シクハ世離レタル山ノ奥ニ居ヲハヤトテ遂ニ那邊久羅トイヘル山ノ奥ニ入リ頓

テ爰ニテ身マカリ又都ヨリ從ヒタル弟子ノ僧相謀リテ庵ノ跡ニ寺ヲ作り眞禪寺ト名ヅクトイヘリ

(今案ニ皇帝紀抄正治元年三月十九日高雄文覺上人院勘ニ依リテ佐渡國ニ配流セラレニケ度流刑ヲ行ハル、モノナリトアリ初伊豆ニ流サレ後佐渡ニ流サルヲ云ヘルナラン)

獅子城

世ニ東福城トイヘルナリ古蹟雜太郡石田中原ノ間ニアリ本間左衛門少尉時直カ居城ニシテ其名古クヨリ聞エシナリ年經テ天正十六年上杉家ノ領トナリシ後彼家臣青柳隼人此城ニアリテ農政ヲ分チ行ヒシトミエタリ其後寛永二十年ニ壞レテヨリ永ク廢跡トハナリシナリ其カミ文明中宗忍法師按ズルニ宗忍ハ宗祇ノ弟子ナリトモイフ何レガ是ナルヲシラス此國ニ渡リシ時河原田ノ城ニシテ千句ノ獨吟ヲナセリ此眞蹟近キ頃迄持傳ヘシ人アリシカ火災ニ罹リテ失セ又惜ムベキナリ

適々書寫テ殘リシ物アレド後年亦散亂シテ其事蹟ヲ失ハム事計  
ルベカラズ今其大畧ヲ舉テ左ニ記ス

於佐渡河原田東殿獨吟千句

第一

何人

植ソヘムワレモウハシ家ノ風

秋ノ來テ咲草ノ花園

都ニハ遠キ野山ノ虫ナキテ

第二

一何

ヒロカラムコ、ロハセヲノ卷葉カナ

今朝ヤトナカキ秋ノハツカセ

ナカメ居ル籬ノ外山キリ晴テ

第三

何木

山姫ノ裾野ノ花ガ女郎花

曙シロシ月ノ傍

小鹿ナク草ノ枕ノ秋フケテ

第四

千何

トクオソク初花サカヌ草モナシ

霜マヨウ野ノ秋サムキコロ

月落ルソトモノ朝夕鳴ナキテ

第五

何色

朝顔ニレノ、メ長キ空モカナ

日影ホノメキ露残ル庭

秋寒キ霜ノマカキノ傾キテ

第六

白何

袖ノ露花ニマスホノ薄哉

小萩ウツロヒノコルムシノ音

吹ヨリ過ル野分ノアト暮テ

第七

何船

カリノコスホタテ色コキ水田カナ

サキ眠居ル秋ノヤマモト

晨朝影ウスクナル日ノ出テ

第八

一字露顯

色ヲ香ニワケハヤト思フ紅葉カナ

嵐ノ木ノ間秋フカキカケ

ソラノクレオキソヘ庭ニ露落テ

第九

薄何

朝霧ヤ波ノ上ナル秋ノ海

尾花チル野ニチカキ江ノ水

船イル、麓ノシホヒ鴈ナキテ

第十

山何

松虫ノコエヤ秋ノ夜月ノ雪

ス、キカレクツノキノイハカ子

宿チカキワカソハ菊ノ水汲テ

嘉吉年中觀世太夫元清入道世阿彌故アリテ流罪ノ時今ノ和泉村ノ正法寺ト云ヘル禪院ニコモリ居テ謠曲ニ山ヨリ出ル北時雨ト云詞ヲ作りタルヨシ言ツタヘタレドモタシカニ記シシモノナシ後天文二十二年ノ頃元清カ玄孫元忠ト云人河原田ノ城主本間氏ノ招キニ應ジ門人市倉彦九郎保生七郎服部又四郎同三太夫春四郎ナト云者ヲ伴ヒ來リ河原田ニテ猿樂ヲ興行セシトアリ其時ノ番組ト云モノ翁式三番玉ノ井賢盛軒端梅船辨慶半部弓八幡ト記セリ

按ズルニ此國ノ風土記等ニ獅子城ノトヲ東福城ト記セルハ後人附會ノアヤマリナリ獅子城トイヘルハ本間ガ家ノ紋所重目結十六目トモヨリ出テ古キ名ナリ又今ノ河原田大坂町ヲ朱母衣町

ト云ヒ其上ノカタヲ黃母衣町ト云テ本城ノ舊跡ニ近シ此事タマタマ土人ノ物語ニ殘レリ本間カ此城ニアリシ時ノ稱ナルヘシ

(今案ニ黃母衣町ノ上手ニ壺ノ内文ハ御馬出ル云ヘル所アリコレハ當時本間家ノ馬場ノアリシ所ニテ馬壺杯云ヒシ所ノ遺稱ナルヘシ)

佐渡志卷之十三

遷流

神龜元年甲子三月始テ配流ノ地ヲ定メラレ遠近ノ程ニ從ヒテ三等  
 ニ分タレシ時伊豆安房常陸佐渡隱岐土佐ヲ以テ遠流トシ諏訪今信濃  
國諏訪郡也伊豫ヲ以テ中流トシ越前安藝ヲ以テ近流トストイヘリ續日本紀  
 去レバ官爵アル人ノ爰ニ流サレタル者世々ノ史ニ筆ヲタハス其後  
 室町家ノ時ヨリ豊臣家ノ頃迄ハ記シシ物ナケレバ定カナラズト雖  
 正慶長ノ後猶配流ノ地ニシテ寶永ノ頃ニ至リテ始テ其事ヲトメ  
 ラレキ

今案ニ延喜式刑部流移人云々其路程者從京爲計伊豆去京七百里安房  
 九十里常陸七十五里佐渡一千三百里隱岐九百一土佐一千二百等國爲  
 遠流信濃五百六十里伊豫全等國爲中流越前三百一安藝四百九等國爲近

流ト見エタリ里數ハ六丁一里ノ計算ニシテ佐渡ハ二百二十里今

計ニ當レリ

養老六年壬戌正月廿日正五位上穗積臣老流サル上ヲ謗ルノ罪ニ依

テナリ天平十二年六月十五日大赦ニ遇ヒテ召還サル續日本紀

天平十四年壬午十月十七日川邊朝臣東女流サル鹽燒王ノ事ニ坐セ

ラレテナリ同上

天平寶字元年丁酉七月四日安宿王及妻子流サル時ニ惠美仲麻呂寵

ニ誇リテ權ヲ恣ニス橘奈良麻呂之ヲ除カンコトヲ謀リ安宿王之ニ

預ル事顯ハレテ罪セラレタルナリ同上

天平寶字三年庚申五月七日僧善神專住壇ケラル姦惡ヲ縱ニスルノ

罪ニヨリテナリ續日本紀類聚國史流ノ部ニ出ヅレバ類聚國史流入タルコト疑ヒナシ

延曆四年乙丑九月廿四日大伴國通流サル父繼人ガ天伴竹良ト共ニ

藤原種繼ヲ殺シ、ニ坐セラレテナリ全廿四年三月廿七日大赦ニ

遇ヒテ歸京セリ三代實錄日本紀畧日本後紀

延曆四年乙丑十一月八日能登守從五位下三國真人廣見流サル人ノ

謀反ヲ誣ヒ告ルノ罪ニ因テナリ續日本紀

延曆十一年壬申三月十八日內膳奉膳正六位上安曇宿禰繼成流サル

違勅ノ罪ニ因テナリ類聚國史拾芥抄

承和六年己未三月十六日從七位上伴宿禰有仁從六位下刀伎直雄貞

少初位下佐伯直安道志斐連永世等爰ニ流サル是レ遣唐使ノ下司

ニシテ使命ヲ遂ゲズシテ亡匿セシ罪ニ因テナリ續日本紀

二月十六日有仁雄貞召還サル續日本紀

同シキ十年癸亥十二月廿九日內舍人文室忠基流サル父宮田麻呂ガ

謀反ニ因テナリ同上

嘉祥元年戊戌十二月晦日大判事日本紀略戊戌是ナリ外從五位下讚

岐朝臣永直流サル刑部少輔和氣朝臣齊之ガ事ニ坐セラレテナリ

三年三月十七日召還サレテ本位ニ復ス三代續日本後紀類聚國史共ニ實録土佐國ニ流サルトセル是

ナリ三代實録ニ佐渡トアレド誤ナメリ

同ジキ三年庚子四月廿二日此國ノ流人金刺福貫滿ヲ放チ還サシメ

ラル文德實録初メ流サレシ事記サレズ

貞觀八年丙戌九月廿二日伴宿禰清繩流サル大納言善男卿ガ應天門

ヲ燒レタル事ニ坐セラレテナリ三代實録

元慶四年庚子十月廿六日安倍吉岡流サル誣告ノ罪ニ依テナリ同書

安和二年己巳四月二日僧蓮茂流サル橘繁延藤原千晴等ト逆ヲ謀ル

ヲ以テナリ大日本史日本紀畧

長保元年己亥十二月廿七日藤原致忠日本紀畧流サル前相摸守橘輔政

ガ子及其家僮ヲ射殺スノ罪ニ因テナリ大日本史

寛弘二年十二月廿八日長岑忠義流サル太宰府使トナリテ宇佐ノ賢

殿ヲ封セシ罪ニ因リテナリ日本紀畧扶桑畧紀

長元四年辛未八月八日齋宮頭藤原相通流サル其妻ト共ニ大神宮社

ヲ私室ニ設ケ庶民ヲ誑惑セル罪ニ因リテナリ日本紀畧

長元五年壬申九月廿七日出雲守橘俊孝流サル杵築社ノ神託ヲ偽リ

造リ人ニ官位ヲ授ケシ罪ニ因テナリ大日本史

長曆元年五月廿日散位欠氏成流サル但馬守源則理ガ八幡ノ別宮司ト

鬪争ノ罪ニ坐セラレテナリ扶桑畧紀

永承二年丁亥十二月廿四日筑前人清原守武流サル私ニ宋ニ入ルノ

罪ニ依テナリ大日本史

康平六年十一月十七日興福寺僧清範ガ山陵ノ事ニ坐セラレテ僧俗

十六人安房常陸佐渡隱岐土佐等ノ國ニ配セララル扶桑畧紀但シ人員氏名

ニ詭曲仲光記ス所ニ據レバ佐渡風土記ニ所謂當國ノ流人藤原仲光ハ是時ノ十六人ノ内ニテ當國ニ流サレシカ年曆畧ホ合ヘリ

康平七年甲辰九月十六日前下野守賴實賴實扶桑畧紀清卿眼抄大日本史

和漢年契類實ニ作ル舊本日本史ニヨレルカ流サル上野介橘惟行ト鬪ヒ宅ヲ燒人ヲ殺ス

ノ罪ニ依テナリ大日本史十二月五日改メテ土左ニ流サル實ハ佐渡ニ  
ハ來ラザリシナリ扶桑略記  
清解眼抄

康平不食年十二月十六日前出納大學屬菅野成經流サル八幡ノ神人  
ヲ打損スルノ罪ニ坐セラレテナリ清解眼抄

承保二年乙卯閏四月廿八日散位源基宗流サル其罪シルサレヌ大日本史  
承曆二年六月十六日許ヲ得ズシテ歸洛セルヲ以テ再ハ下野國ニ

流サル扶桑略記

康和二年庚辰九月中務丞源賴治流サル延曆寺ノ僧兵ヲ拒ミテ日吉

ノ神人ヲ殺スニ依ルトアリ大日本史  
佛事志

同シキ五年癸未八月十三日神祇權大副正五位下大中臣輔弘流サル

豐受大神宮離宮院放火ノ罪ニ依テナリ本朝  
世記

嘉承二年丁亥七月十三日散位姓關賴貞流サル香椎ノ神興ヲ射神人ヲ

殺スノ罪ニ依テナリ大日本史

天仁元年戊子二月從四位上源義綱朝臣加茂流サル今年二月其姪義

忠人ニ殺サル廷議義綱カ子義明等カナス所トシテ檢非違使ヲ向

ラレ義明戰ヒテ死ス義綱朝臣之ヲ怨ミ近江國甲賀山ニ據テ叛ク

源爲義討手ニ向ヒ義綱朝臣降リテ其子息等自殺ス同後再譴メラ

レテ自殺セリ國史紀事本末  
神皇正統錄

天永二年辛卯十一月十九日下野守源明國流サル人ヲ殺スノ罪ニ依

テナリ大治四年六月廿五日赦サレテ還ル大日本史

永久元年十月醍醐勝覺僧都ノ童千手丸流サル醍醐寺仁寛阿闍梨ノ

罪ニ坐セラレテナリ源平盛  
衰記

保延三年丁巳二月今本大日本史十二日前主殿助平季盛流サル伊勢神

人ノ訴ニ依テナリ大日本史

康治二年癸亥七月廿九日源賴盛流サル後改メテ常陸ニ流サル佐渡

ヘハ來ラザリシナリ本朝  
世記



康治二年癸亥七月廿九日藤原國永流サル源賴盛ニ組シテ擅ニ軍兵ヲ興シ猥リニ合戦ヲ企ツルノ故ナリ本朝世記

保元元年丙子七月廿五日式部大夫藤原盛感入道流サル此年京城ノ亂ニ依テナリ保元物語

安元二年丙申三月十九日上西門院藏人平盛方流サル中務少輔藤原爲綱ヲ殺スノ罪ナリ大日本史

同シ年十一月晦日前兵衛尉源義經此義經ハ源判官ト同時ノ人ナレ流サル延曆寺ノ僧ヲ殺スヲ以テナリ同書

治承元年丁酉六月二日近江中將入道流サル鹿谷會合ノコトニ依テナリ大日本史今本日本史六月二日ニ此事見エズ唯是月トノミアリテ月ヲ記サザナリ本史又入道ノ名蓮淨ト見ユ俗名成雅ト云フ平家物語蓮生ニ作り盛感ニ流スルアリ但シ佐渡風土記武家評林ヲ引テ六月二日トセリ佐渡

正治元年己未三月十九日僧文覺流サル其身山林ニ在テ朝政ヲ諂リ密ニ不軌ヲ謀ルニ依テナリ大日本史皇紀抄百鍊抄ヲ引ク平家物語ニ流サルトアルハ誤ナリ文覺塚ノ條

合セ見ルベシ

建永元年丙寅九月十八日參議左大辨藤原公定流サル院勘ニ因リテナリ皇紀抄大日本史

建曆二年壬申六月八日伊達四郎流サル鎌倉殿ノ侍所ニテ荻生右馬允ト鬪亂ノ罪ニ依テナリ東鑑

建保四年丙子五月九日僧仙秀流サル安樂寺惡徒十七人ノウチナリ皇紀抄

同シキ六月十八日宇佐公妙本名ハ流サル其罪サタカナラス同書文永八年辛未九月十四日僧日蓮流サル本間六郎左衛門重連預リテ

鎌倉ヲ出シ十月廿八日此國松崎ニ到ル根本寺妙宣寺妙照寺本行寺實相寺等ノ條ヲ合セ見ルヘシ同シキ十一年甲戌二月十四日赦サレテ還ル注書贊北條九代記十年二月ニ大赦ニ遇フトアリ二月十四日赦三月八日赦狀到

弘安四年辛巳七月二日佐介脩理亮平時光流サル其罪定カナラス東鑑

永仁元年癸巳左衛門尉平宗綱流サル父果圓入道カ罪ニ坐セラレテ

ナリ同書程ナク召還サレテ二度管領トナリ後又罪アリテ上總國ニ

流サル北條九代記

同シキ六年戊戌三月十六日冷泉大納言藤原爲兼卿流サル武家ニ逆

フヲ以テナリ嘉元元年癸卯閏四月召還サル大史此卿ノ下ラレケ

ル時越後ノ國名立ノ里ニテ讀タマヒタル歌ニ

都ヲハサスヲヒ出テ今宵シモウキニ名立ノ月ヲミル哉

又同シ國寺泊ノ旅館ニテ遊女初君カヨミテ參ヲセタル歌玉葉集

物思ヒ越路ノウラノ浦浪モ立歸ルナラヒアリト社キケ

又此國ニオハセシ程讀玉ヒシト云フ歌アリ其中一卷ハ三十一首

ノ歌ヲ文字クサリトイフモノニシテ履冠ノカナ各一首ノ歌ニヨ

ミナシ總テ三十三首アリ又一卷ハ阿彌陀佛ノカナヲ八重タスキ

ナド云フ如クニ讀タルナリ本紙ハ宇治ノ寶庫ニ納タリト云ヒ傳

ヘテ此國ニ寫セルモノハ羽茂郡赤泊村禪長寺ニ古ク傳ハリタル  
由ナレド寫シ誤レル所モ多キカトゾ見ユル彼ノ禪長寺ハ旅館ノ  
跡ナリトイヘリ

詠歌寫

春

アラ玉ノ年モ越ヌト逢坂ノ關サヘカケテ カスム木ノシタ  
フル雪ニ昔ノアトヲ尋テヤ若菜ツムヲム タカマトノヲノ  
コノ程ハ川音タテ、ウチ解ル氷ノアトニ ノコルシヲナミ  
トキ初テ開クル梅ノ花カツラ心ニカケテ ミルヤワキモコ  
ヲリテ實花ヲモ見ヌハ鶯ノ鳴ヨリヨソニ コエヤキカマシ

夏

マチワビテ初音ヲソ聞時鳥シノフル程ハ シハシハカリガ  
タチ花ノ香ヲナツカシミ夏衣袖メ涼シキ カセノフクカモ

イマハ早白雨シケリイカ許リ露ケカル蘭  
津ノ國ノ蘆間ノ螢ホノホノト明行夜半ノ  
カハノ瀬ノ清キ汀ニ祓シテアトヨリ秋ノ

秋

ハルカナル朝霧カケテ泊ラハマ夜半ノ吹ヒノ  
トマリ船トマ引ステ、通夜マチ出ル月ヲ  
ユフ暮ハ野原オシナミ鳴鹿ノ哀ヲソヘテ  
フル里モ庭ノ淺茅生吹風ニ虫ノ音カケテ  
タレモ賢惜ムカヒナク秋モ早泊ラテ行カ

冬

スキノ屋ニ降音ス也神無月時雨ル、空ハ  
キハシニモアラヌ嵐ノサヲサゾト音サヘ今ハ  
カキクラシ降淡雪ノ積ルマテ猶山フカク

ケフモ又符塚ノ眞柴ソヨキツ、霞ヲ寒ミ  
シタヘ共早暮ニテシウハ玉ノ一夜ニ年ヲ

戀

チキリシモ偽ソ連憂人ヲ忘レムトスレハ  
カクハカリ相モ思ハスアフ事ヲ頼ム心ハ  
ヒマヲナミ恨ミソ増ルアマ衣ヌル、袂ニ  
オノツカラ問モ怨メシ人心ウカリシ儘ノ  
カスカスニ猶ソ戀シキ月日ヘハ忘ントノミ

無常

見ルモウシ消ニシ人ノ思ヒヨリ立ヤ煙ノ  
ニシヘノミ通フ心ヲ極樂ノ道ノシルヘト

釋教

述懷

オモヒシラスヤ



正中二年乙丑十二月日野權中納言藤原資朝卿流サル八幡ノ里ニテ  
子規ノ御製皇居古跡ノ條ヲ合セ見ルベシヲ聞テ讀玉ヒキトイフ歌ニ

(此歌和訓枝折ニ後醍醐天皇ノ隱岐ニテ詠セサセ給フトアリテ句モ亦異ナレリ云ク「聞ク人モ今ハナキ身ニ時鳥誰ヲ恨ニ鳴ヌ此里」)

聞ク人モ今ハナキ世ニ時鳥誰ニ忍ヒテ過ル此里

此卿ヲハ國府ノ地頭本間山城入道系圖ニ兵衛太郎泰宣トアルハ預リ此入道カヲニヤ定カナラス

テ佐波太ノ里今竹田ノ村ニ置ク後鎌倉ノ沙汰トシテ正慶元年壬辰

五月廿九日山城入道其一族本間三郎ヲシテ失ハセマ非ラス子息

阿新ニ殘シシ偈アリ

(今案ニ五月廿九日常樂記廿五日ニ作り公卿補任六月二日ニ作レリ日本史之ニ從ヒタリ)

天地無定主、日月無定時、擊有三才、彊有三綱、謂之如夢幻泡影、爰和翁懷屈平之楚思、入回優游、以至今日、爲汝一言、秋霜三尺、曾不埋貞松、士見之、豁開眼睛、洒々落落、獨立乾坤之間、咄

此後二百六十七年ノ事ハ凡テ記シシモノナシ慶長中ニ至リテ服部伊豆守トイフ人此ニ流サレタリトテ其住タル跡又書簡ナト多ク殘リタレト罪狀ハ定カナラス其レヨリ末ハ粗記シタルモノアリ去レト薄祿ノ士ノ罪ヲ得テ來リ閭里ノ民ノ放タレシナドハ素ヨリ其名ヲ載ルニ及バズ唯一二ノ記スベキヲ爰ニ出シツ

承應二年癸巳伊勢祭主名關流サル北狄村胎藏寺ノ邊リニ居レリ寬文五年乙巳赦サレテ還ル

寬文十二年壬子三雲縫殿頭重村院參衆流サル好色ノ事ニ依テナリ此國ニ下ルトテ途中ノ歌ニ

ヨ、モマタ全シ假寢ノ草枕ヨシヤユク、月ニ明サム、隣レシレウキ子ノ浪ノヨル毎ニ思フ都ノ夢モミハテズ

延寶三年乙卯七月廿九日赦サレテ還ル  
天和元年辛酉小倉前大納言藤原實起卿同息宰相公連卿二男竹淵刑

部大輔季伴流罪實起卿違勅ノ罪ニ依テナリ木曾路ヲ經テ下ラレ  
ケル時實起卿ノ讀ミ玉ヒシトテ云傳ヘタルアリ

老ガ身ニ思ヒヲソヘテ行旅ノ寢覺ノ床ノ名サヘ恨メシ

息公連卿ノ此國ニテ詠ミ給ヒシト云傳ヘタルニ

ハルハケサ北ノ海ナル荒磯モミルメノドカニ霞初ツ、

貞享元年甲子三月十八日實起死シ同年九月廿二日公連又死ス共

ニ鹿伏村觀音寺ニ葬リ後相川下寺町高安寺ニ改メ葬ル元祿八年

巳亥五月季伴勅免アリテ歸京ノ時辻八郎左衛門守遊ガヨミテ

參ラス

ミガクレノ蘆間ノ光アラハレテ雲ノ上マデユク螢カナ

佐渡志卷之十三終

佐渡志卷之十四

遺事

此國古ヘヨリ言傳ハシ事共少カラズ又風土記ナドニ記ス所モアレ  
ド其說概テ荒唐ニシテ信ズルニ足ラズ殊ニ人物ノ類ヒニ至リテハ  
蕞爾ノ小國ナリト雖上下千百年ノ間如何ゾ忠臣孝子義人烈女ノ  
屬ヒナカラザラム去レド文化ノ開ケザル時假令其事蹟アリトモ記  
載シテ後ニ遺ス人ナケレバ遂ニ湮滅シテ世ニ傳ハラザルニゾアル  
ベキ爰ニ諸書及ビ俚老ノ傳フル所其信ズベキモノハ之ヲ擧用ヒテ  
人物ノ一端ヲ記シ傍ラ古人ノ遺言ヲ錄シテ後ニ傳フルノミ

大納言伴善男卿ハ佐渡國ノ郡司ノ從者ナリ或時ノ夢ニ西大東大ノ

兩寺ヲ跨ギテ立タリト見テ妻ニ語ル妻ノ曰御身ノ勝コソ裂ケヌ

ベシト云フ善男喜ビズシテ郡司ガ許ニ行ク郡司極テ人相ノ上手ナリケルガ善男ヲ見テ殊ノ外饗應シケリ善男怪ムデ我ヲ斯ノ如ク日頃ナキ様ニモテナシ果ハ勝サカム料ニヤアラムト恐レ思フヲ郡司察シテ我カク汝ヲ饗スルト他ノ心ニアラズ汝誠ニヤムコトナキ高相ノ夢見タリシヲヨシナキ人ニ語リシナリ必ズ大位ニ進ミナム去レド事出來テ罪ヲ蒙ラムトイヘト其後善男所縁ニツキテ上京シ大納言ニ歷上リシガ貞觀八年應天門ヲ燒シ罪ニ依テ伊豆國ニ流サル善男實ハ左大辨繼人ガ孫右大辨國道ガ子ナリ國道ガ罪ニ坐セラレ佐渡國ニ流サレシ時此國ニテ生シ處ナリトイヘリ

富士名三郎源義綱ハ佐渡ノ人ニシテ源高雅ガ子ナリ義綱檢非違使ニ補セラレテ佐渡守ヲ兼タリ正慶元年北條高時逆威ヲ擅ニシテ後醍醐天皇ヲ隱岐國ニ遷幸ナシ奉リシカバ明ル二年ヨリ諸國ニ

兵ヲ起スモノ多カリケレバ高時懼レテ隱岐ノ守護佐々木清高ニ命シテ近國ノ兵ヲ集メ行宮ヲ警衛セシム此時義綱モ催促ニ從ヒテ中門ノ警衛タリ義綱竊ニ思ヒケルハ古ヘヨリ治亂一ナラズト雖也逆ハ順ニ敵セザルコト常ノ道ナリ若シ是ニ味クシテ不義ニ陷イラバ後ニ悔ユトモ及ブベカラズ速ニ乘興ヲ奉シテ義兵ヲ撃ントゾ謀ケル去レド其由ヲ奏セン便リヲ得ザレハ案シ煩ヒケルニ或時帝女房ニ仰セテ中門宿直ノ兵ニ酒ヲ賜ルコトアリ義綱折コソヨケレト賜宴ノ恩ヲ謝シ奉ラム爲メニ御前ニ參リ謹テ奏シケルハ臣竊ニ聞ク所ヲ奏シ奉ル此頃河内ノ楠正成金剛山ニ據リ赤松則村播摩ノ摩邪山ニ屯シ備前ニハ伊藤ガ一族山陽道ヲサシ塞キ四國ニハ土居得能等長門ノ探題ヲ攻走ラシテ直ニ龍駕ヲ迎奉ラムト申スナリ聖運ヲ開カセ給フベキコト此時ニアリ然ルニ高時兇惡ヲ逞フシテ大逆ヲ行ハムヨシ流言シテ候ヘバ其事信

ナラムニハ不測ノ變ヲ生ズベシ如何ニモノ臣ガ宿直ノ日ニ當リ  
 テ速ニ出雲伯耆ノ間ニ移サセ給ハ、二ヶ國ノ武士共必ズ詔旨ニ  
 應シ申スベシト奏シケル帝頓テ召仕ハセ玉フ女房ヲ義綱ニ賜ハ  
 リテ其情偽ヲ察シ玉ヒシカド義綱感激シテ心ヲ動カスコトナカ  
 リシカバ頓テ義綱ヲシテ迎興ノ軍兵ヲ招カシメラル義綱出雲ノ  
 守護鹽谷高貞トハ親キ一族ナリケレバ出雲ニ趣キ高貞ヲ諭シケ  
 ルニ却テ彼カ爲メニ拘留セラル其後天皇辛フシテ行宮ヲ逃レ玉  
 ヒ伯耆國ニ渡御アリシ後高貞始テ義綱ト共ニ行在ニゾ趣キケル  
 義綱ガ謀ル處遂ゲズト雖正天皇船ノ上潛幸ノ事ハ其言ヨリ啓ケ  
 シナリ

本間山城左衛門ハ佐渡國中原邑ノ産大佛陸奥守貞直ガ恩顧ノ者ニ  
 テ昵近シケルガ此頃聊カ勘氣セラレテ出仕ヲトメ已ガ宿所ニ  
 引籠テ在ケルニ正慶二年新田殿ノ兵起テ既ニ五月十九日鎌倉ニ

攻入り極樂寺ノ切通ノ戰敗レヌト聞ヘシカバ山城左衛門若黨中  
 間百餘人最後ノ出立シテ極樂寺ノ坂ヘ馳向ヒ敵ノ大軍ヲ蹴ケ破  
 大將大節宗氏カ首取テ貞直ガ陣ニ參シ幕ノ前ニ畏テ多年ノ芳  
 恩報シ奉リヌアハレ御不審御免ヲ蒙テ心安ク冥途ノ御先仕リ候  
 ハムト申モ果ズ腹カキ切テ失ニケル貞直大ニ其志ヲ感シ落涙ヲ  
 コソナシニケレ大日本史太平記ノ說之ニ全シ梅松論ニハ山城左衛門ヲ高  
 貞和五年ノ古文書アリ官長ノ條ヲ合セミルベシ

國分十郎末俊ハ雅太郡澤田村ノ人ナリ建治二年老母ノ病危カリシ  
 カバ竹田村ニアル所ノ龍壺ニ入テ身ヲウタセ國分寺ノ藥師如來  
 ニ祈テ不快セムトテ願フコト夜毎ニ怠ラズ至孝ノ誠心皇天感應  
 ヤマシマシケムサバカリノ重病ナリシカド竟ニ平愈シケリ所ノ  
 地頭ヨリ若干ノ地ヲ十郎ニ下シテ其孝心ヲ賞セントゾ今ニ至テ  
 十郎ガ瀧ノ名殘レリ



本間小三郎ハ羽茂ノ地頭本間某ガ子ニシテ賢徳ノ頃ノ人ナリ其姉  
 ヲ文姫ト云フ其母死テノチ父後妻ヲ娶リテ小三郎ヲ生ム繼母常  
 ニ我子ノミヲ愛シテ文姫ヲ惡ミ屢父ニ讒スルコトアリテ痛ク責  
 懲セシカバ小三郎之ヲ憂ヒ悲シンデ遂ニ家ヲ遁テ羽茂郡大崎村  
 ノ山奥三里許リ犬落ト云フ所ニ隠レ住ヌ文姫モ頓テ爰ニ住シト  
 云ヘリ

此地路極メテ險阻ニシテ山間屈曲シ左右ノ山屏風ヲ建タルガ  
 如ク中ニ一徑ノ深キ川アリテ幾度トナク水ヲ涉リテ其所ヘ到  
 ルナリ今モ其末ナリトテ民家三軒アリ其内今モ小三郎トイフ  
 家アリテ大崎村宮本坊トイフ寺ニアル過去帳ニ文姫并ニ小三  
 郎ノ名ヲ載セテ寶徳ノ年號ト法名ヲ記セリ其古書タルコト疑  
 フベクモアラズ今ニ此寺ニテ三家ノ追善ヲ行フトイヘリ小三郎文  
 姫ガ肖像ト云モノ或家ニ傳ヘタレド後人ノ附會シテ作リシモノトラン證ト  
 スルニ足ラス亦羽茂本郷ノ奥ニ注連張トイフ所アリ是モ民家五軒アリ古ヘ

小三郎ガ世ヲ通レシ時羽茂ヨリ附  
 從ヒテ來リシ者ノ後ナリトイヘリ

田中三郎兵衛源正玄ハ加茂郡澤村今雜太郎ニ屬ス委シノ産ナリ其先  
 キハ建置ノ條ニ見ユハ伊勢ノ人ニシテ正玄ガ祖ヲ玄儀トイヒ甲州ニ移リ住テ武田信  
 玄ノ幕下ニ仕ヘ勝頼ニ至リテ參州長篠ニ戰死ス其子ヲ玄重トイ  
 ヒテ始テ佐渡ニ移リ澤根村ニ住シテ正玄ヲ産メリ正玄十五歳ノ  
 時信州高遠ノ城ニ赴キ始テ保科家ニ仕ヘテ肥後守正之朝臣ニ拜  
 謁シ近臣トナリテ恩眷ヲ蒙リ漸長シテ家政ノ事ヲ預リ聞ケリ其  
 後保科家奥ノ會津ニ封ヲ移サレシヨリ正玄ヲ以テ家老トシ管内  
 ノ政大小トナク悉ク附託セラレ正玄其責ニ任シテヨリ專ラ公正  
 ヲ守リテ聊モ私心ヲ狹マズ裁斷滯ルコトナカリケレバ家中ノ士  
 悉ク之ニ依頼シテ管内ノ民皆其惠ニナヅケリ斯テ會津城ノ良方  
 ニアタリ數畝ノ地ヲ賜ハサテ別業ヲ營シ山ノ井ノ二字ヲ扁額ト  
 ス是レ淺香山ノ古歌ノ心ヲ取テ名附シナルベシ暇アルハ其所

遊ビテ志ヲ樂シマシム寛文九年四月正之朝臣致仕セラレケル  
 時正玄世子筑前守正經朝臣ニ從ヒテ柳營ニ登リ台顔ヲ拜シ奉リ  
 事畢テ會津ニ還ル同十二年享年六十ニシテ五月廿八日病ニ罹リ  
 家ニ没ス老侯深ク愛惜セラレ令ヲ封内ニ下シテ管内ノ制法永ク  
 正玄ガ定ムル所ヲ改ムマシキ旨ヲ諭サル正玄ガ平素イフ所ノ言  
 ニ曰凡政事ノ道條路多シト雖モ其大ナルモノ三ツアリ君ノ心ヲ  
 正フスルコト一ツ群士ヲ撫愛スルコト一ツ諸民ヲ憂恤スルコト一ツ此  
 三ツノモノヲ以テ本トシテ小節ニ拘ルベカラズ事繁ケレバ民勞  
 スル煩ヒアリ或人歲豐カニテ穀熟スルヲ賀スルモノアリ正玄色  
 ヲ正フシテ答ヘケルハ卿唯食祿ノ歛ムルヲ知リテ未ダ民戸ノ苦  
 シミヲ知ラズ我ハ唯民ニ菜色ナク飢寒セザルヲ以テ豊年トスル  
 ノミナリト申シケレバ其人感服シテ去リケルトゾ  
 南門僧正ハ羽茂郡宿根木村稱光寺ノ寺中長松庵ニテ薙髮シ此處ヲ

出ル時ノ歌ニ

年フトモマタ歸リコム此寺ノ軒端ノ松ヨ我ヲ忘ルナ  
 後ニ學問進テ遊行四十二世トナリ廻國シテ爰ヘ渡リシ時童時ノ  
 師蘆隱トイフ人七十餘リノ齡ヲ保テ尙在生シテ和歌贈答アリ南  
 門モ詩歌ヲ好テ後ニ僧正ニ進ミシトイヘリ京ヲ辭スル時ノ言葉  
 名殘ナク出テコソ行ケ假ノ宿都モ常ノ住家ナラテハ

羽茂郡澤崎村ノ農家ニ此人ノ詩アリ

彌陀光明照十方 十方何心勞其光 請看天上一輪月  
 念佛以前光已長

此外尙多ケレ記スルニ暇アラズ唯其一ニテ擧ルノミ

法眼中山玄亨字ハ永貞蘭渚ト號ス此國ノ産ニシテ中原村ノ良農治  
 賀ガ二子ナリ幼ニシテ京師ニ入り醫ヲ令大路道三ニ學ブ享保二

年學成テ故郷ニ歸リ父母ニ請テ再ビ平安ノ都下ニ勤學シ術長ス  
 ルニ及テ其名四方ニ鳴リ九條殿下ニ奉事シテ法橋ニ叙シ進デ法  
 眼ニ擧ラル寶曆十年庚辰殿下ニ供奉シテ關東ニ赴キ台顔ニ拜謁  
 シ時服ヲ賜リ同十二年天診ヲ奉シテ三朝ニ侍診シ曾テ諸王公卿  
 及外藩ノ諸侯診ヲ乞テ至ラザル所ナシ壽八十三歲安永八年己亥  
 八月八日卒ス門人等私ニ謚シテ貞節先生ト云フ平生嚴毅ニシテ  
 英斷アリ志ヲ立テ不移節ヲ守テ動ク所ナカリシトナリ嗣子玄同  
 嫡孫玄又並テ法眼ニ叙ス玄亨八十ノ壽ヲ賀シテ九條應龍公ノ賜  
 ハリシ詩アリ

余識中山玄亨五十年此亨代貫佐渡家業軒岐術亨幼有遷番志  
 西上游干京師術屢奏奇工名遂達天庭辱充醫員今年齡八十可  
 謂稀人也因贈鳩杖一事蕪詞一章賀其壽

瞿鏞是翁意氣雄 南山樹色映樓中 青雲終遠遷番志

白首更看醫國風 占壽八旬傳妙術 活人三折贊天工

猶期百歲策扶老 出入禁閤長奉公

安永丙申之夏

藤 應 龍

井戸多兵衛ハ此國ノ貧士明曆中ノ人ナリ舍兄新右衛門ハ當時御旗  
 本ニテ駿河ノ御城番ヲ承リ亦甥某ハ甲府ニ奉仕セシヨシナリ多  
 兵衛ハ好身ニ附テ此國ニ來リ其後召出サレテ小木湊ノ番所ヲ守  
 レリ其頃江戸ナル親族ヨリ人ヲ遣シテ多兵衛ヲ迎ヘシカバ答フ  
 ベキコトアリト云テ大ナル盟ニ潮ヲタマヘ生鯛ヲ其中ニ游ガセ  
 使ヲ呼出シテ如何ニ此樂ミ江戸ニシテ萬石ヲ得ルトモ家易ニア  
 ラズ我常ニ之ヲ翫テ他ノ心ナシ再ビ故郷ニ歸ル可ラズ速ニ歸テ  
 此由ヲ申スベキ旨ヲ云ヒシトナリ去レバ此人平生ノ質樸ナルコ  
 ト云ニ及バズ都下繁榮ノ地ヲ顧ミズ一族ノ招ヲ捨テ身ノ幸ヲ念  
 トセズ此國ノ風月ヲ甘シ故郷ノ人ニ對シテ其志ヲ耻シメサリシ

コト感ズベキ事ニアラズヤ

龜女ハ仙田八兵衛千道ガ女ニシテ天和ノ頃ノ人ナリ幼ニシテ奇ホ  
アリ八歳ノ時父千道戯レニ振分髪ゾ肩ニ亂ル、ト讀掛ケルニ女  
答テ處女子ガ袖吹カヘス春風ニト云ケルヲ一時ノ口吟トノミ思  
ヒケルニ十二歳ノ時琴ノ師ナリケル人ノ都ニ歸ルヲ送リテ

君ニ今立別レナハ花鳥ノ色ニモ音ニモ戀シカラマシ  
又其頃讀タル歌ノ中ニ

村雨ノ過ル雲間ニフケニケリサラテモ影ハ短夜ノ月

煙タツ浦ノ苦屋ノ淋シサハナカナカナレヤ秋ノ夕暮

書ハ殊ニ美ハシクテ八歳ノ時龍華樹ノ三字ヲ書タル額今小木町  
安隆寺ニ殘レリ十四歳ニシテ世ヲ早クセントゾ惜ムベキ事ナリ  
奥田與三左衛門藤原范仲ハ此國ノ貧士奥田勘左衛門良忠ガ五男ナ  
リ幼フシテ四方ノ志アリ江戸ニ出テ土屋相模守數直朝臣ニ仕フ

天聰性敏ナリシカバ次第ニ身ヲ立テ寛文十二年始メテ家政ノ事

ニ預リ延寶四年家老ノ列ニ加リ數直朝臣卒シテ後嗣君政直朝臣

ニ仕ヘ老職故ノ如シ延寶七年政直家督ノ使トシテ台顔ヲ拜シ貞

享二年二月政直土浦ノ城ヲ賜ハリシニ至リテ千石ヲ領ス元祿四

年正月朔日土浦ニ病死ス此人幼ナキヨリ名譽ノコト多シ今其一

ニヲ擧ゲ爰ニ記ス未ダ幼ナカリシ時ノ歌ナリトテ

イツカワレ鳥ノ鳴音ニ起出テ君ニ仕ヘン曉モカナ

又或時土屋家ニテ待客ノ事アリシニ時移テ其設ノ火鉢ノ炭オコ

リテ火勢熾シナリシニ與三左衛門是ヲ擧テ衆客ノ前ニ出ルニ面

色少シモ變ゼズ自若タリシトナリ故郷ノ母ノ年老テ與三左衛門

ニ逢ムヲ思フト聞テ主家ニ暫シノ暇乞ヒテ故郷ニ歸リ且暮母

ノ側ニ在テ昔今ノ物語シテ母ノ傍ヲ離ル、コトナシ親族某ナル

人私宅ヘ招キテ饗セント云シニ御志忘ルベカラズ去ナガラ某主

家ノ政ニ預ル身暫シノ暇請フテ故郷ニ歸リシハ更ニ他ノ故ニア  
 ラズ母ニ逢奉ラム志ノ切ナリシニヨレリトテ滯留ノ間更ニ他出  
 スルコトナク夜モ蒲團ニヨリテ快ク眠ニ就クコトナカリシカバ  
 或人此事ヲ聞シニ我幼フシテ國ヲ辭セシヨリ今ニ至ルマデ斯ノ  
 如クナレバサシテ物憂コトナシト答ヘシトナリ是ヲ以テ其志ヲ  
 立テ移サ、リシコト思ヒヤルベキニヤ

佐渡志卷之十四終

佐渡志卷之十五

物産

金 和名 古加禰

昔能登ノ國司此國へ人ヲ遣シテ砂金ヲ採リシト云フコト宇治大  
 納言物語ニ出タレバ年久シキ事ニ有ルベケレドモ年曆記サレ  
 ハ何時ノ頃ト云フ事知ルベカラズ越後ノ謙信佐渡ノ金ヲ採テ軍  
 國ノ用ヲ辨ゼシト云フモ多クハ西三川村ノ砂金也慶長六年ヨリ  
 後相川ノ中山立合ト云フ山ヨリ穿リ得ル所ノ金夥シク上納セシ  
 ト見エタリ是熟金ニシテ上品也中ニモ最上ノ物ヲ紫金ト名付ク  
 其厚薄ヲ分ツニ紀州奈智ノ黒石ニスリ附テ試ル秘事  
 (今案ニ採金ノ説ハ今昔物語ニ出ルヲ舊シトス宇治ハ後ナリ)

銀 和名 之路加禰

● 佐渡志卷之十五

天文十一年ノ夏越後國ノ商船澤根ノ浦ニ纜ヲ繫テ終夜天色ヲ望ムニ金銀ノ氣空中ヲ衝クヲ怪ミ逆旅ノ主人ニ相謀リテ地頭本間氏ニ告グ礦脉ヲ尋テ鶴子山ヲ開キケレドモ功未ダ成ザルヲ嘆キ後越後ノ國ノ領主上杉謙信ニ訴ヘケレバ入道ガ下知トシテ同國魚沼郡上田村ノ金穿ヲ人夫數百人ヲ渡ラシメテ天文ノ末弘治ノ頃迄ニ銀銅ヲ得タル中ニ金モ少ク交リタレドモ費用ヲ補フニ至ラズ年經テ慶長六年關東ノ御料ニ併セラレシヨリ天盛徳ニ感シケルニヤ金銀ヲ出スコト年ニ多ク中ニモ相川ノ中山通リト云フ礦脉連綿トシテ出ル所ノ銀ニハ多クハ金ヲ帶ビタ。此中ヨリ出ル金ハ異邦ニ稱スル所ノ煉金ニシテ銀トシト云フハ生レノ儘ノ銀ニテ上品也其餘ハ雜碎百煉シテ銀ト成ルナ。委テハ金銀山志ニ見エタリ

銅 和名 阿加々稱

鶴子山ヨリ産スル銅ヲ以テ鍍鑄タル事ハ食貨ノ部ニ云ル如シ寛政ノ頃相川鳥越山ヨリ銅出ル事多シ幾程ナクシテ銀山ト共ニ衰ヘタリ

鉛 和名 奈万利

加茂郡入川村ノ深山ニ産ス下品ニシテ亦出ルコトモ少シ  
蛇含石

所々ニ有リ石ト混シ又自然銅ト形相似テ辨別シ難シ羽茂郡山田村磐臺山ニ出ルモノ眞ノ蛇含石ナルベシ

金密陀僧 方言ロカス

小判所トテ通用金ヲ製スル所ヨリ出ツ官禁嚴ニシテ得難シ  
銀密陀僧

吹分所トテ金銀ヲ分ル所ヨリ出ツ官禁ノ嚴ナルコト前ノ如シ  
玉髓

加茂郡山谷ノ中ニテ稀ニ得ルモノヲ見タリ多クハ瑪瑙ノ吹出タルナリ又羽茂西三川椿尾村山中ノ砂石ノ中ニ生ズルモノ土人石髓ト云フ今ハ甚ダ稀ナリ

珊瑚

土人佐渡珊瑚樹ト名付テ海底ノ石ニ生ズルモノ漁網ニカ、リテ上ルコトアレドモ桃紅色ニテ美トスルニ足ラズ所謂似テ非ナルモノナルベシ黒珊瑚樹ト云ベキモノ漁網ニカ、リテ上ルヲ方言海松ト云フ土人琢磨キテ愛翫スルナリ前ノ佐渡珊瑚樹ニ比スレハ光澤ウルハシキモノ也

瑪瑙

此國ニ産スルモノ追琢シテ硯トシテ江州ノ人柚木大淳ガ藏スルモノヲ見タリ具ニ問フニ北條敬太郎ガ贈ルト答ヘタリ想フニ加茂郡虫崎村ニアル葡萄石ナルモノ土人小ナルヲ愛シテ大ナルモ

ノヲ賤ム其大ナルモノヲ彫琢セシト見ヘタリ諺ニ云フ如ク玉不琢無光シテ人知ルニ及バザルナルベシ

寶石 方言舍利石

加茂郡月布施村ノ海濱ニアリ奥州津輕ノ産ト同シク小圓形ニシテ透明也其色ハ白黄ニ限ル也拾ヒ得テ貯藏スレハ年ヲ經テ子ヲ生ズ予ガ正シク見ル所也

白石英 方言吹ワレ

金銀坑中ニ生ズ大小長短均シカラズ上品ハ至テ稀也中品以下ハ時々出ル事アリ皆六稜アリ土人水有リテ水晶ト稱スルモ石質水ヲ含テ是ヲ轉倒スレハ水升降スルニ似タリ世俗最珍トス昔鶴子ノ銀坑ヨリ紫石英ヲ出ス今中尾ノ銀坑ニ紫石ヲ出スコト多ケレドモ石英ニハアラザルナリ

石膏 通名シライシ

金銀坑中青盤ト云フ所ヨリ産ス下品也

玉火石 方言火ウチカド

三郡所々ニアリ一種羽茂郡西三川村山中ニ出ルセンベイ火打石

小野蘭山翁ノ考ニ瑪瑙ノ天然薄片ナルモノトイヘリ

方解石 方言イ、キリ

所々ニアリ

滑石

加茂郡山中ニアリ

化石

松ノ化石ハ羽茂郡新保村柳澤村ノ海邊ニ多シ皆大石ナリ又雜太  
郡橋村ノ海中ニモアリシデノ木ノ化石ハ羽茂郡大杉村杉野浦村  
ノ邊ニ多シ貝ノ化石ハ雜太郡戸中村平根崎ト云フ海中ノ出岬ニ  
有リ一種小貝ノ化石シテ玉質トナリタルモノ羽茂郡澁手村ノ山中

ニアリ此數品ハ堅硬ナルモノ也又木葉石鮎石ナド、云フモノ所  
々ニアレドモ石ニハ非ズ土ノ塊リタルニ其形陰々トシテ現ハル  
也

石脂 方言イシワタ

赤石脂雜太郡相川ノ東上相川ト云フ所ヨリ出ルモノ桃花色及ビ  
黃白ノ石脂モ交レリ青石脂ハ同郡姫津村水シロト云フ所ニ産ス  
蘭山翁ノ佐州ヨリ出ルヲ上品トスト記セシハ金北山中ニ産スル  
モノ成ルベシ

無名異

雜太郡中尾山羽茂郡篠川山ニ産ス舶來ノ物ト形狀同シカラズシ  
テ能ハ却テ勝レリト云フ

石鐘乳 イシノチ

其坑ハ海府土地村ニアリ今ハ乳ヲ穿テ盡シテ只官禁ノミ昔ノ儘



ニ嚴ナリト云フ股藥ハ古世採リタルモノ適々殘レルヲ持傳ル者有リトゾ

石麩

羽茂郡中坂山中ニ出ヅ幾何ナウシテ凶饑ノ事アリ是ヨリ土人採ルコトナシト云ヘリ

浮石

方言カルイシ

雜太郡鹿伏村醫王寺近邊ノ土中ヨリ出ヅ一種菊銘石ナルモノ有リ石ニ似テ非ナルモノナリ

赭石

金北山中ニ出ヅ其餘所々ニ産ス

綠青

方言イワロクセウ

百枚ト名付ル銀坑ニ産ス相川鳥越ノ坑中ニモ稀ニ出ル也扁青 方言イワコンゼウ

海府入川鉛山ニ生ズ

膽礬

銅坑アル所鶴子百枚及ヒ鳥越山ヨリ出ヅ下品ニシテ藥用ニ當リ難シ

金牙石

所々山谷ノ間ニアリ羽茂郡山田村磐臺山ノ側ニ多シ石鏃 方言矢ノ根石

蟻形ノ石ナリ其形一ナラズ或ハ墓股或ハ尖或ハ平根等ノ品々皆瑪瑙ノ類ニ似タリ五色アリ白キモノ最透明ナリ又灰色ニシテ光澤ナキモノアリ上品ナルモノ少ク中品下品ノモノ多シ俗説ニ毎年二月十日空中ヨリ降り下ルモノニテ神軍ナリト云テ其日少山ニ入ラズ十一日ノ朝ヨリ是ヲ拾ヒ得ルト云

砥石

方言トイシ

加茂郡上新穂山ヨリ多ク出ス淡縹色也又黄色ナルアリテ髮剃砥  
ト稱ス性粗ナルヲ礪石ト稱ス兩品トモ國用餘リアリ

石蛇 方言イキリ

海濱ノ石ニ付テ生ズ形細長クシテ堅シ蟠屈重疊シテ蛇ノ如シ形  
狀一ナラズ大小均シカラズ首尾一般ノ大サニシテ空虚ナルモノ  
多ク肉有ルモノ稀ナリ

霹靂砥 方言雷斧石

其形扁長ニシテ本ハ厚ク末ハ薄ク刃アルニ似タリ小ナルモノハ  
長サ一二寸大ナルモノハ長サ六七寸性堅ク肌緻密ニシテ金石ノ  
如シ其色一ナラズ或ハ深黒或ハ淺黄又灰色褐色青石ナルモアリ  
形状異ナルモノ亦少カラズ羽茂本郷西濱邊ノ田野山中雷後ニ必  
ズ得ルト云フ

赤玉

加茂郡赤玉村海濱ニ出ヅ上品ナルハ朱ノ如シ下品ナルハ丹黄色  
ヲ帶ブ大ナルハ稀ニシテ小ナルモノ多シ

黑曜石

雜太郡和泉村ノ山中或ハ畑ノ中ニ有リ其質灰色也打碎ケバ中ハ  
光澤アリテ漆ヲ塗リタルガ如シ堅カラズシテ量モ輕シ

天巧礬石

方言シヤウレンボウ

外海府眞更川村ノ海濱ニアリ色黒微青ヲ帶テ光澤有リ圓ナルモ  
アリ又微長ナルモアリ大ナラズ稀ニ大ナルモノヲ得テ硯材トナ  
スベシ

草類

桔梗

數種アリ花或ハ紫ニ或ハ白單ナルアリ複ナルアリ北山ノ下ニ生  
● 佐渡志卷之十五

ズルモノ紫ノ一重ニシテ藥トナスニ佳也ト云フ羽茂郡小木村ニ  
越ル路ノ傍ニ多クアリ花ノ盛ナル殊ニ觀ツヘシ

偏精 方言アマドコロ

山中ニ多ク有リ採テ藥舗ニ販グ黃精ノ一種ナリ

鹿藥

北山ノ間ニ有リ土人はヲモアマトコロト云フニヤ

天麻

小倉村ニ稀ニアリ藥トナスニ堪タレド惜ラクハ多カラズ

遠志 方言ヒメハギ

山野ニ多シ藥ニ用ルニ堪タリ

淫羊藿

方言イカリソフ

原野ニ有リ羽茂郡三岬野ニ多シト云フ花淡紫色ト白色トノ二種

アリ

玄參

加茂郡梅津村ニ多シ

延年草

方言ガゼツナ

山中溪間ニ生ズ形王孫ニ似テ大ナ。或書ニ王孫ノ一種ナリト云  
ヘリ

紫草

方言ムラサキ

雜太郡小倉村ニ稀ニアリ古歌ニ紫ノ根スリノ衣ナド讀ルモノ是  
ナリ

白頭翁

方言セカヒサウ

山野ノ間ニ稀ニアリ

白及

方言シラム

人家ニ栽テ花ヲ翫フ

三七

通名

人家ニ栽ユ物理小識ニ出シ廣州三七ノ同種ニアラズト雖モ血ヲ  
治スルノ功能ハ相同シト云ヘリ

黃連

山中ニ多シ根ノ長四五寸ヨリ一寸計リ外皮黒色ヲ帶ビ内ハ深黃  
ナリ効能他邦ノ産ニ勝ルト雖モ形ハ美シカラズ

黃岑

近世人家ニ栽ユ元此國ノ産ニアラズ他邦ヨリ種ヲ傳ヘタル成ベ  
シ

前胡

方言イワウセリ

山中ニ多シ

防風

通名ボウフツ

此地ニ生ズルモノ方言ハマボウフツ藥物トナスニタヘズ

獨活

方言ウド

土當歸

方言ウド

山中ニアリ形状土當歸ニ似タリ食フベカラズ

山中ニアリ採テ食品トス笹川拾八枚村砂金山ヨリ出ルモノ殊ニ  
美也

升麻

方言イヌノヲ

山中ニアリ

苦參

方言クラ

山野ニアリ一種ムシナノ苦辛ト云フモノ野生アリ民家ニ方言セ  
ムフリト云

延胡索

山中ニ生ズ竹葉ノモノ也皆牡丹葉也氣味薄クシテ藥ニ用ユベカ  
ラズ

貝母

人家ニ稀ニ栽ヘ藥トナシテ漢種ニ下ヲヌト云フ

山慈姑 方言カタクリナ 通名カタクリ

山野ニ多シ四月頃花開ク其色薄紫ナルモノ多シ白キモノハ小倉

村ニアリ根ヲ掘テ山慈姑粉ヲ製ス

石菖 方言マムシユシヤケ

路傍ニ生ス一種鐵色箭アリ人家ニ種ニ

水仙

人家ニ栽テ花ヲ弄ブモノ多シ

白茅 方言ツバナ

原野ニ多シ

芒 方言カヤ

山野ニ多シ

龍膽 方言トントウ

山中ニア・又蔓龍膽春龍膽モ路傍ニ見ルコトアリ

細辛

山中ニ多シ採テ藥舖ニ賣ルニ他邦ノ産ニ勝レリト云フ

杜衡 方言チヤウシヤノカマ

山中ニアリ

及己 方言フタリシツカ

山中ニアリ

徐長卿 方言ハマヤナキ

山野ニアリ

白薇 方言フナハラ

山野ニアリ

百兩金 方言タチヤナ

蘇砂根 方言マンリヤウ

此二種昔ハナカリシガ今雜太郡新保村ノアタリニ多シ本南國ノ  
産ニテ甚ダ雪霜ヲ恐ルト云ヘリ

紫金午 方言チヤウシヤノクハシ

山中ニ稀ニアリ

當歸 和名オホセリ 方言ヤマト、ウキ

(字缺) 和名ムナカツラ 方言ウシノメクスリ

二種トモ南山下村ニアリ

蛇牀 方言マニシシ

海府村々ニアリ

藁本

白芷

此二種雜太郡新保村ノ醫家ニ栽レ用ヲナシ難シ  
芍藥

人家園中ニ栽テ花ヲ賞ス藥用ニスルモノ多クハ加茂郡長江村ニ  
産スル山芍藥ヲ用ユ

牡丹

園中ニ栽テ花ヲ賞ス藥種トスルニ足リ難シ

木香

稀ニ醫家ニ種レ土木香ノ一種ナリ

指甲花 通名ハマモクコク

海部村々ニアリ

赤車使者 方言ミツクナ

山野ニ多シ賤民採テ菜トス

薄荷 通名 方今メクダハコ

原野ニ自生アリ羽茂郡小泊ノアタリニ多シ

積雪草 方言カイチタワラ

蔓生ニシテ道傍ニ多ク生ズ陰干ニシテ辛烈ノ藥味ニ合セ腰痛ヲ  
温ル奇功アリ

紫蘇

圃ニ栽テ食用トス又野生モアリ

荏

方言エゴマ

圃ニ栽テ子ヲ收メ油ニ搾リ雨衣雨傘ノ用ニ供ス原野自生ノモノ  
ハ稀也

萩

方言ハギ

原野ニ數品アリ方言ミヤギノト稱スルモノ紫花美ハシ又ヨメハ  
ギハ見ルニ足ラザルモノナリ

菊

數種アリ或ハ園中ニ栽テ花ヲ賞シ或ハ圃ニ栽テ食用トス食用モ  
ツトモ愛スベシ

野菊

方言ノギク

苦蕒ト稱シ醫家ノ用ヲナス事多シ

蓍

方言メトキ

雜太郡新保村ニア、同國小倉村ニ生スルモノ殊ニヨシ

艾

和名ヨモギ 方言モチグサ

原野ニ多シ

茵陳蒿

方言カハヨモギ

青蒿

方言ノニムジン

河邊海邊ニ多シ

黃花蒿

方言ゴギヤウ

白蒿

方言シロヨモギ

二種羽茂郡龜脇村堂釜村邊ニアルモノ上トス雜太郡河原田ノ海  
濱ニ産スルモノ亞トス其外所々ニアリ

蘆蒿 方言ムシナアザミ

原野ニ多シ春月賤民採テ茶トス

馬前蒿 方言ノコギリソウ

山野ニアリ

陰地蔵 方言ヒカゲワラビ 又フユワラビトモ云フ

山野陰地ニ生ズ

牡蒿 方言オトコヨモギ

山野ニ多シ

芫蔚 通名ヤクモソウ

自生ノモノ原野ニ多クアリ

鑿菜 方言ヤブレガサ

薇術 方言張良艸

夏枯草 和名ウルキ 方言スイハナ

劉寄奴艸 方言オトギリソウ

旋覆花 方言オグルマ

青箱 方言イロオシケイトウ

以上六種トモニ山野自生ノモノ也

雞冠 方言ケイトウゲ

圃ニ栽テ花ヲ愛ス

紅藍花 和名クレナ井 方言ベニバナ

園栽トナシ葉ハ茶ニアテ花ハ花染トナス

燕脂 方言カタベニ

大薊 方言ヤマアザミ

小薊 方言ヒメアザミ

三種山野ニ多シ

續斷 方言ト、キ又ウハカチ



苦菜 方言ゴヤチ

二種春月賤民トリテ茶トス

漏盧 方言タマホウキ

苧麻 初名カラムシ 方言ヤマソ

野生多シ海部ノ賤民採製シテ裂織ト云フ物ノ經ニ用ルナリ

シナノ木

海部ノ山野ニ生ス賤民採製シテ精ナルモノヲ以テ船ノ綱ニ打粗

ナルモノヲハ裂織ノ經トシ用ユ

箸 方言オヤマザ

端午ノ日粳糕ヲ包ムノミ

蘆 方言ヨシ

荻 方言ラギ

共ニ水邊ニアリ種類多クシテ葭葦亂荏トモニ蘆荻ノ類ニシテ其

名ハ稗長ニヨリテ分ルト小野關山イヘリ

芭蕉 方言バセヲ

人家ニ栽レトモ元來南邦ノ産ナル故寒國ニ移シテハ繁茂シ難シ

故ニ甚ダ稀ナリ

蕺荷 通名メウガ

人家ニ栽テ菜トス

木賊 方言トクサ

山谷水邊ニ多シ庭除ニ栽ルモアリ西三川砂金山ノ産ハ岐ヨ。枝

ヲ生ズ名産トスルモノナリ

石龍薺

龍常車

野生路傍ニ多シ小草ニテ其葉至テ細ク絲ノ如シタツノヒゲト云

フ

地黄

タマ、圃ニ種レドモ土地ニ合ザルヤ繁茂シガタシ

牛膝 方言テイソク

此國ニ有ルモノハ山野自然生ニテ土牛膝ナリ

紫菀

民家ニ栽テ繁茂シヤスシ

女苑

野生ナシ

麥門冬

和名ヤマスケ 方言ヤフラム

多ク人家ノ軒下雨落ニ栽ユ大小葉ノ二種アリ

萱草

方言ギボヲナ

野生ナリ初生ノ時賤民採テ茶トス

鴨跖草

和名ツキグサ 方言ツユグサ

紫花地丁

和名スミレ 方言カギノハナ

共ニ野生也

葵

方言フヒアフヒ

園中ニ栽ユ食用ニアラズ

蜀葵

方言花アフヒ

錦葵ハ方言コアフヒ又セニアフヒ有リ黃蜀葵ハ方言ヒマハリ又

秋葉アリトモニ圃園ニ栽テ花ヲ賞ス

菟葵

和名イヘニレ 方言半夏葵

大小葉數種アリ

龍葵

方言イヌホウヅキ

龍珠ハ方言ヤマノカミノホウヅキト云蜀羊泉ハ方言ヒヨドリシ

ヨウコ鹿蹄艸ハ方言ノアフヒトイヘリ

酸醬

方言ホウヅキ

女兒ノ玩トナスノミ

敗醬 方言オミナヘシ 又チトメグサ

迎春花 方言ワウバイ

盆栽トサシテ花ヲ愛スルモノアリ山野、自生ナシ

欸冬花 方言フキノトウ

冬春食トナス痰咳ヲ治スルノ効アリ山フキ里フキ皆ト食用トス

ベシ

鼠麴草 和名ハ、コグサ 方言ツトミグサ

野生多シ

地膚 和名ハ、キ、方言ホウキボウ

石竹 一名瞿麥 和名ナデシコ

花ヲ賞スルモノ數品アリ

剪春羅 方言セムノウケ

剪夏羅 方言カムヒ

鐵線 方言カツヲ

虎耳草 方言ユキノシタ

金盞草 方言キムセシカ

以上五種花壇ニ栽テ人ノ賞スルモノ也

茱苳 和名オホバコ 方言オムバコ

車前子トナシテ魚毒ヲ解スノ効アリ

大黃

人家ニ栽ユ素ヨリ多カラズ其餘木戟甘遂續隨子根ナド栽ルモノ

アレド稀ニシテ國産ト賞シガタシ

商陸 方言ヤマゴボウ

山野圃畔皆アリ本草集解ニ赤花ナルモノ毒アリトイヘリ

澤漆 方言トウタイクサ 又ス、フリクサ

雲實 和名ハマサトケ

二種野生也

蓖麻 和名カラエ 方言トウノコマ

雜太郡新保村小倉村ノ人家ニ栽ユ

草烏頭 一名雙鸞菊 方言ブス

山野ニアリ採テ藥舗ニ賣ル

天南星 方言ヘビノダイワウ

山中ニ生ズ大小葉ノ二種アリ藥ニ用ルニ小葉ナルヲ佳トスト云

ヘリ又班杖ト云フモノ相混シテ同ジクヘビノダイワウト云是モ

其一種ナリト云ヘリ

蒟蒻

人家ニ栽ユ根ヲ製シテ食料トナス事他ノ國ニオナシ

半夏 和名ホソクミ 方言ツフロコ

所々ニ有リ採テ藥舗ニ販ギ又他國ヘモ賣出ス也

鬼白 方栽ヤグルマサウ

山中ニアリ

射干 方言ヒアフギ

黄花紅花ノ二種皆野生ナリ

蝴蝶草 方言シヤカ

鳶尾 方言イチハツ

二種野生多シ

玉簪 方言キシ、又キリ、ナ

山野ニ生ズ此國ノ兒戲レニ葉ヲ採リ假面トスルヲ以テメンバト

名付テ

風仙

人家ニ種テ花ヲ翫フ花色品多シ

躑躅 和名ツ、ヂ

山中ニ有リ加茂郡鷺岬村彈野ニハ殊ニ多ク紅花アリ白花アリ黄花モ又稀ニアリ其サツキキリシマ又琉球ツ、ヂノ類多ケレバ省キツ一種北山ノ南ノ崎ニ奇木アリ樹葉共ニツ、ヂニシテ桃花ヲ着ク草木ノ諸書ニオイテ見ル所ナシ天ノ物ヲ生ズル其測ルベカラザル事斯ノ如シ

蜀漆 方言クサギ

所々ニアリ根ヲ常山ト云ヘリ

牛扁 方言ウシノヒタ井

所々ニアリ

現ノ證據

牛扁ノ一種ニシテ救荒本草ニ載スル所ノ旣牛兒又鬪牛兒ト云フモノ是也山野所々ニ生ズ莖細ク莖ノ如クニシテ白キ花ニ薄キ紅

紫ノ點アリ梅ノ花ニ似テ小サシ六七月ノ間花サク往年因幡伯耆ノ二州ニ痢病流行セシ時國司ヨリ令アリテ庸醫ノ藥ヲ用ヒズ此艸一味ヲ味噌汁ニ煎テ飲シメラル、ニ悉ク効アリト聞ケリ

鉤吻

蔓生黃精葉芹葉ナド、云フ數種アリ蔓生ノモノハツタウルシト名付テ山野ニ多シ木石ニ取リツキテ生ズ物ニ纏ハズ故ニ亦三葉ノ鉤吻トモ云黃精葉ノ鉤吻ハ草木ノ二種アリ又世俗ニフタゴナリトイフモノ越後方言フタコロピカヘルツリトモ云テ山中ニ生ズ灌木ニシテ高六七尺計リ形狀圖ノ如シ五六月ノ間葉間毎ニ細枝ヲ出シ其先ニ實ニツ宛附テ熟スレバ赤シ小兒ノタメニ殊ニ恐ルベキモノ也亦民間ニフロシキ包ミト唱ヘ方言ニ鍋破リウツギト云フモノ是モ亦其毒酷烈畏ルベキ物也斯ニ三種ノ圖ヲ出スヲ以テ能々合セ見テ畏レ避ベキ事ナリ稻若水ノ鉤吻圖說松河玄達

ガ鉤吻考ニ逐一記シタレドモ此國ノ山民輒モスレバ小兒ヲアマ  
マツ事有ルヲ以テ更ニ擢テ出ス

五味子 方言マツプトウ

野生アリ殊ニ藥劑トス

蓬蘽 方言フセイチゴ

覆盆子 方言ナツイチゴ

縣鉤子 方言サガリイチゴ

三種トモ山中自生多シ民家ノ小兒翫ビ食ス蛇莓ハ方言ヘビイチ

ゴ小兒ヲ戒テ食セザラシム

榼藤子 方言モタマ

此國ノ産ニアラズ海外ヨリ流レ來ルモノヲ海部村々ノ海邊ニテ

稀ニ拾ヒ得ル也海藻ノ質ト混シオボヘテ藻玉ト云フ成ルベシ

牽牛子 方言アサガホ

花數品アリ花園ニ栽テ愛スルモノ多シ

月季花 方言ナヤウシユン

花ヲ愛スルモノ花壇ニ栽レ花刺多シ

括萋 方言カラスウリ

路傍林側籬邊ニ多シ功能一ナラズ

葛 和名クヅ

家園ニ栽ル家葛也又山野自生ノモノアリ民家採テ葛粉ヲ製シ市

中ニ賣ル也吉野葛ニ亞グベシ

南天蜀 通名ナンテン

人家ニ栽ルコト多シ

菖薺 方言トコロ

常ニハ春盤ノ具トスルマデ也荒年ニハ貧民ノ食トナシテ益多シ

菘 方言ガンナイハラ

五六月ノ頃子ノ小サクシテ青キモノヲ採テ菜ニ加フ山家ノ民誤リ稱ヘテ和ノ山歸來ト云フ

通草 方言アクビ

山野ニ自生多シ賤民採テ食フ

忍冬 方言スイカヅラ

山野ニ最モ多シ水腫ヲ治スルノ効アリ

藤 和名フヂ

紫藤ヲ以テ本色トナス花ヲ賞スル人白藤ヲ愛スルモアリ稚葉ハ

飢荒ノ時賤民食ニ交テ糧トスルニ味ヒ美也ト云フ根ヲトリ水ニ

浸シ賤民ノ衣服ニ製ス風俗ノ部ニ出ス所ノ才氈帷子ノ一種ニ供

ス加茂郡川崎村ノ出ス所ヲ上品トス

澤瀉 方言ナ、トウグサ

池澤水田ニアレテ藥劑トスルニタヘズ

菖蒲

端午ニ軒ニ挿ムモノ是也一種花菖蒲アリ賞スルニ足ラズ又石菖

蒲アリ山谿水谷ノ間ニアリ

芥菜 和名アサ

尊 和名ヌナハ 方言ジュンサイ

池澤中ニ生ズ加茂郡中ノ美味トス初夏ノ後ハ堅クシテ食ニタヘ

ズ

石斛

澤山中岩石上ニ生ズ採得ルモノ稀ナルハ險阻ヲ憚リテナルベシ

相川銀山及ビ加茂郡入川村ノ山中ニアリ

金星草 方言ウヲボシ

山中崖壁ニ生ズ一種方言谷ヲタシアリ

石長生 方言クロハギ

山谷石下ニ生ズ

酢醬草 和名カタバミ 方言ス、メグサ 又チン、モクサ

庭砌ニ多ク生ズル小草ナリ

馬勃 方言ヂボユリ

路傍林間トモニ濕陰ノ地ニ生ズ

水楊梅 方言大コシソウ

田畦ノ間ニ多シ

龍芽 方言ミヅヒキ

花ニ赤黄ノニツアリ黄花ハ金水ヒキト云ヒ藥用トス

仙人草 方言フツグサ

有毒不可食皮膚ニ貼シテ水毒ヲ吸ヒ泡ヲ發スル功アリ

胡麻

黑白二種アリ三郡皆圃ニ作ル

大麻 和名アサ

加茂郡虫崎村ニ栽ルモノ上トス同郡羽丹生村コレニ亞グ三郡村

々ニアリ

大麥 方言オホムギ

小麥 方言コムギ

糠麥 方言クロムギ 又茶ヒキグサ

雀麥 方言シホコ

蕎麥 和名ソバ

數種アリテ三稜ナルモノ多シ四稜ナルモノハ水津村ニアリ

ナシテ名産トス羽茂郡ニハ殊ニ多ク作レテ食用ニ供スルノミ

稻 和名イネ

數種アリ早稻三十四種中稻四十四種晚稻六十四種アリ

粳 和名ウルシ子



糲

病人ノ食トスルモノ稀ニ栽ルナリ

稷 和名キビ

黍 和名モチキビ

蜀黍 方言モロコシキビ

玉蜀黍 方言クハシキビ

羽茂郡村々ニ多ク作レ只小兒ノ翫ビ也

粟 方言オホアハ

三郡毎村ニ作ル

粟 方言ウダアハ

秫 方言モチアハ

稭子 和名ヒエ

稗 和名ノビ

水田ニ作ルモノヲタビエト云ヒ陸田ニ作ルモノヲハタビエト云  
ヒ自生ノモノヲヒエト云ヒ多クハ作ラズト雖此地ニ應ジテ水旱  
ノ患ヒナキヲ以テ凶年ノ備ニ作ル成ルベシ菰米ハ此國ニテ見ル  
コトナシ葱苡仁甚ダ稀也  
異子粟 方言ケシノミ

羽茂郡ニ多シ花ヲ賞シテ佛前ニ供ス美人艸ノ名アリ散リヤスキ  
ヲ以テ佛ニ供スルナルベシ稀ニ阿片トテ脂ヲ取り製スルモノアリ

大豆 方言クロマメ

黑豆ニツラカケウヅラマメアリ黄大豆ニミソマメト云フマメアリ  
羽茂郡ニテ多ク作ルナリ

小豆 和名アツキ

早晚ノ二種アリ亦シロアツキアリ綠豆ハヤエナリト云フ病人ニ  
● 佐渡志卷之十五

益アリ一種蔓赤小豆ト稱スルモノ味ヒ美ナラズト雖也救荒ノ益  
アリ一種白アツキト稱スルモノ味ヒ美ニシテ本艸ニ所謂白小豆  
ナリ穠豆甚ダ稀也

豌豆

大小二種アリ小兒ノ玩トナシテ食ス一種ツルヒロエンドハ苜蓿  
ナリ土人鳥コヤシト云フ

蠶豆

方言ソヲマメ  
民家ニ作リテ茶トナス早晚ノ二種アリ圃ニ作ルモノハ五月豆ト  
イフ晚キモノ多シ

豇豆

十六サ、ゲトイフ物多シ蔓ノ長短二種アリ又インケンサ、ゲト  
稱スルモノ茶トナシテ美ナレ也其益豇豆ニシカズ豆類甚ダ稀  
ナリ又フジマメト云モノアリ白扁豆ノ類ト見ヘタリ

韭

和名コニヲ 方言キンサンニヲ

山韭

方言自然ニヲ

葱

方言子ブカ

一種漢葱ハ方言キナヘト云フ

茗葱

方言コビエニンニク

島葱ハ方言アサツキ

薤

方言ヲツキヤウ

蒜ハ和名ヒル山蒜ハ方言ノビル

葫

和名オホビル

水仙ニ似タリ

藁臺

方言ワカナ

初春七種ノ粥ノ料ニ圃中ニ植ヘ又菜種ヲ採テ油ニ絞リ油菜ト云  
フ一種トフナ有リアカ子ナ有リムヲサキナ有リ又ヤマカブヲト

云フ物アリ

芥 和名カラシ

菜圃ニ植テ菜トナスヲカラシナト云フ白芥子ヲ採テ藥ニ用ユ

土筆 和名ツクハ、シ、方言ツクシ

初春山畦圃畔ニ生ズ採リテ菜トス

燕青 和名カブラ

村家圃毎ニ作レモ土地ニ合ザル故ニヤ味佳ナラズ菜服ハ方言大

根山圃ニ多ク植テ食用トス其益尤モ多ク加茂郡上ハ野大根雜太

郡相川ノタイラ大根味尤モ佳ナリ

生薑 方言セウガ

寒國故歟貯ヘ植テ生育シガタシ

胡蘿蔔 方言ニシジン

根赤黄白ノ三種アリ野生ノモノヲ方言マニシント云フ

水蕪 和名セリ 方言ノセリ

初春七種ノ粥ニ白根ヲ賞ス雪消ル時毒アリト云ヘリ一種馬蕪ハ

大毒アリ誤テ食スベカラス人ヲ害ス

蕎 和名ナツナ

正月七種粥ニ供ス

繁縷 和名ハコベ

右ニ同シ

鷄腸草 和名タヒラコ

右ニ同シ又雲消テ後野菜トナス是ヲ方言ヨメナト云又圃ニ作ル

モノ草石蠶也通名チヨロキ羽茂郡ニテハ方言山カイト云フ

寬 和名ヒユ 方言ヒヤウ

馬齒寬 方言スヘリヒヤウ

二種トモ路上自生ナリ

高苣 和名チサ 方言チシヤ

民家菜圃ニ植ユ一種ナシヤハ白苣也カハチシヤハ水苣也其餘  
數品アリ委シク記シ難シ

蒲公英 通名タンホ、方言クチ、ナ

原野路上ニ甚多シ賤民採テ菜トス又ニガナ、カヤムク、山クキタ  
チ有リ共ニ原野自生ノモノ也皆賤民ノ食トナスベシ只漢名葢菜  
方言ドクマクリハ臭氣甚ダシ煮汁ヲ吞ハ小便ヲ利ス毒ナシ

萎蕤 方言ヤマトコロ

山中陽地ニ生ズ加茂郡ニハ殊ニ多シ

茄 和名ナス、方言ナスビ

雜太郡上下八幡兩村ニ作ル處多シ其餘村々ニテハ日々ノ食用ヲ  
辨ズルノミ

瓜 和名ウリ

民家食用ニアツルモノ越瓜ヲ以テ第一トス胡瓜多カラズ絲瓜ハ  
稀ナリ南瓜ハ賤民ノ食トス

蕨 方言ワラビ

山野ニ多シ加茂郡鷲崎彈野ニ産スルモノ多シ且ツ味美也賤民採  
テ食トス

薇 方言ゼンマ井

山野ニ多シ羽茂郡笹川村ヲ以テ名産トス乾カシテ他邦ニ鬻グ  
紫菜 方言ユキノ

加茂郡眞更川鴨島ニ生ズルモノヲ以テ絶品トス羽茂郡ヨリ出ツ  
ルモノハ細砂キヲ以テ美トセズ村々多キ故三岬海苔ト稱スルノ  
ミ佳品ニハアラズ雜太郡高瀬村ニ白島海苔ト云フアリ細砂交ラ  
ヌヲ以テ佳品トモ云ベシ

乾苔